

**2011年3月期 第2四半期
SBIホールディングス株式会社
決算説明会**

2010年10月28日

本資料に掲載されている事項は、SBIホールディングス株式会社によるSBIグループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、SBIグループ各社の発行する株式その他の金融商品への投資の勧誘を目的としたものではありません。

また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。

なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

1. 低迷する事業環境下における
2011年3月期第2四半期
連結業績ならびに事業概況
2. SBIグループの「ブリリアントカット化」に
向けた進捗状況
3. 新たな事業分野として花開きつつある
バイオ関連事業

1. 低迷する事業環境下における 2011年3月期第2四半期 連結業績ならびに事業概況

半期連結業績推移

2010年3月期下半期を底に業績は回復基調

(単位:百万円)

	2010年3月期	2011年3月期	前年同期比 (%)	2010年3月期	
	前上半期 (2009年4～9月)	当上半期 (2010年4～9月)		前下半期 (2009年10～2010年3月)	通期 (2009年4～2010年3月)
売上高	63,153	62,948	▲0.3	61,388	124,541
営業利益	※1、2 3,752	※4 3,605	▲3.9	※1、2、7 ▲320	3,431
経常利益	2,012	※5 695	▲65.4	▲899	1,112
当期純利益	※3 822	※6 686	▲16.6	※8 1,527	2,350

- ※1 2010年3月期を通し、SBIカードにおいて貸倒引当金繰入を15億円計上(うち、12億円は旧SBIイコール・クレジットの貸付債権に対するもの)
- ※2 2010年3月期を通し、SBIカードにおいて利息返還損失引当金繰入を8億円計上(うち、5億円は旧SBIイコール・クレジットの貸付債権に対するもの)
- ※3 ゼファー社向け貸付金に対して貸倒引当金 15億円を特別損失に計上
- ※4 SBIカードにおいて貸倒引当金繰入を 7億円計上(うち、6億円は旧SBIイコール・クレジットの貸付債権に対するもの)
- ※5 SBI Korea Holdings において円建借入金の為替差損 6.7億円を計上。
- ※6 ホメオスタイルにおいて、固定資産の減損等により 10億円を特別損失に計上
- ※7 KTIC Holdings 前経営者の不正行為による価値毀損に対応した投資損失引当金繰入 26億円(投資額全額)を計上
- ※8 SBIアクサ生命株式の株式譲渡益 8億円、ブロードメディア株式の株式譲渡益 14億円を特別利益に計上

セグメント別 営業利益の半期推移

株式市況が昨年同時期より不透明感が増していく環境下においても
主要セグメントの黒字化が定着してきた

(単位:百万円)

	※1 2010年3月期	2011年3月期	前年同期比 増減率／増減額
	前上半期 (2009年4～9月)	当上半期 (2010年4～9月)	
アセットマネジメント	2, 471	2, 679	+8. 4%
ブローカレッジ & インベストメントバンキング	5, 985	3, 780	▲36. 8%
ファイナンシャル・サービス	※2、3 304	※5 435	+42. 9%
住宅不動産関連	※4 ▲181	1, 205	+1, 387
その他の	▲1, 104	▲1, 020	+83

※1 2010年3月期	
前下半期 (2009年10月～2010年3月)	通期 (2009年4～2010年3月)
※6 72	2, 543
3, 389	9, 374
※2、3 ▲97	206
1, 054	872
▲999	▲2, 104

※1 2010年3月期についてはセグメント変更反映後の数値

※2 2010年3月期を通し、SBIカードにおいて貸倒引当金繰入を15億円計上(うち、12億円は旧SBイコール・クレジットの貸付債権に対するもの)

※3 2010年3月期を通し、SBIカードにおいて利息返還損失引当金繰入を8億円計上(うち、5億円は旧SBIイコール・クレジットの貸付債権に対するもの)

※4 SBIホールディングスにおいて、たな卸不動産評価損 4億円、セムコーポレーションにおいて貸倒引当金繰入 1億円を計上

※5 SBIカードにおいて貸倒引当金繰入 7億円を計上、当第2四半期より連結子会社となったSBIクレジットにおいて営業損失1.4億円を計上

※6 KTIC Holdings 前経営者の不正行為による価値毀損に対応した投資損失引当金繰入 26億円(投資額全額)を計上

急激な円高の進行が収益に影響

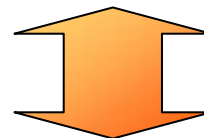
	2010年3月期 上半期平均 (09年4月～09年9月)	2010年3月期 下半期平均 (09年10月～10年3月)	2011年3月期 上半期平均 (10年4月～10年9月)	前年同期比	前年度 下半期比
米ドル/日本円	95.49円	90.25円	88.94円	6.9%円高	1.5%円高
中国元/日本円	13.98円	13.22円	13.08円	6.4%円高	1.1%円高
韓国ウォン/日本円 (×100)	7.57円	7.81円	7.58円	0.1%円安	2.9%円高

(例)

- New Horizon Fund営業利益貢献額(第2四半期累計) : 約13.4億円
仮にドル円レートが前年同期から変化しなかった場合: 約14.4億円※
⇒営業利益に影響
- SBI Korea Holdings において、円建借入金の為替差損 6.7億円を計上。
⇒経常利益に影響



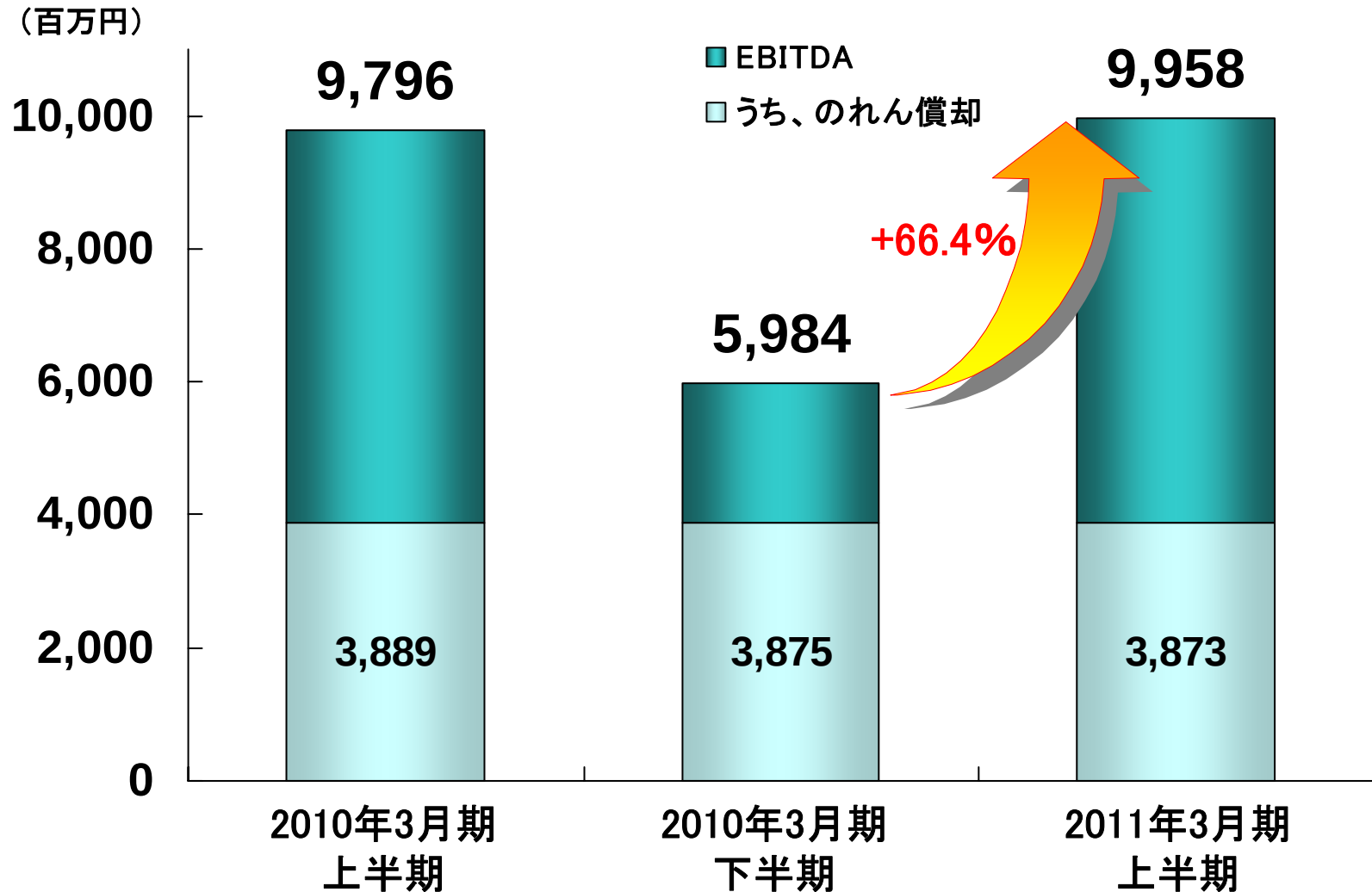
▲1億円



他方で、円高により海外投資コストは大幅に低減

EBITDA(=営業利益+減価償却費+のれん償却)の推移

2011年3月期第2四半期のEBITDAは9,958百万円となり、
前年同期比は1.7%増ながら前年度下半期比は66.4%増と大幅に改善



【低迷する事業環境下における各事業部門の概況】

【アセットマネジメント事業】

2011年3月期 第2四半期累計

(前年同期比) (前年度下半期比)

売上高	105億円	▲13%	+30%
営業利益	27億円	+8%	+3,611%

- 国内IPO件数は、今上半期においても前年同期と変わらず低水準で終わった中、当社投資先企業からは既に3社が海外マーケットでIPOし、1社がM&Aでのイグジットを実現。今後も国内だけでなく、海外のIPOが増加する見込み。
- New Horizon Fund(1号)における当第2四半期累計での営業利益貢献額が13億円となるなど、海外成長市場への積極的投資が奏功し営業黒字を確保。New Horizon Fund 及び他の運用海外ファンドとあわせ、当社出資持分で100億円(10月27日時点)の含み益を有する。
- 同業他社と比較して引き続き高水準の投資を実行(当期累計371億円)

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

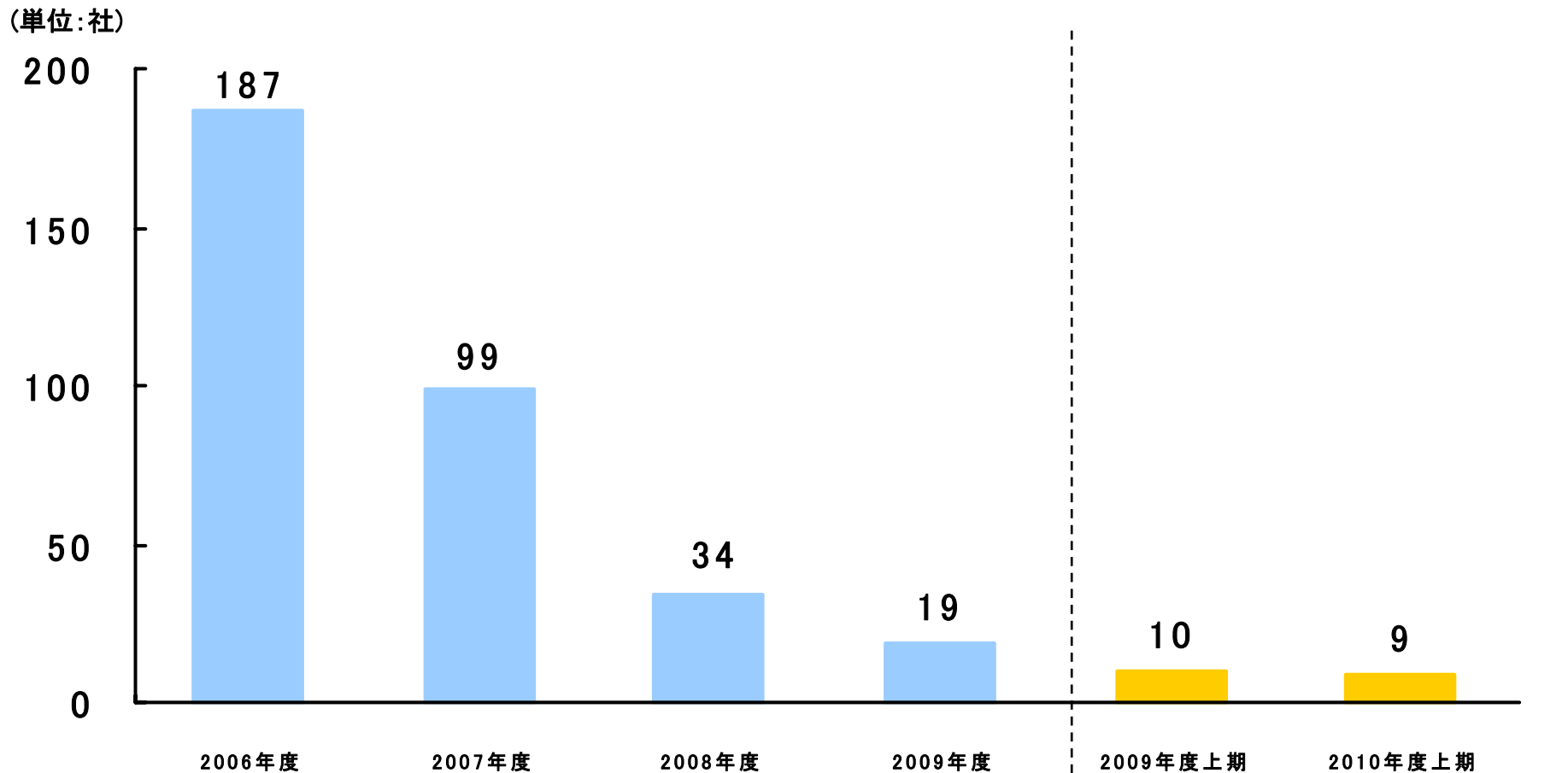
※ 前四半期比および前年同期比は、セグメント変更を考慮して計算しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

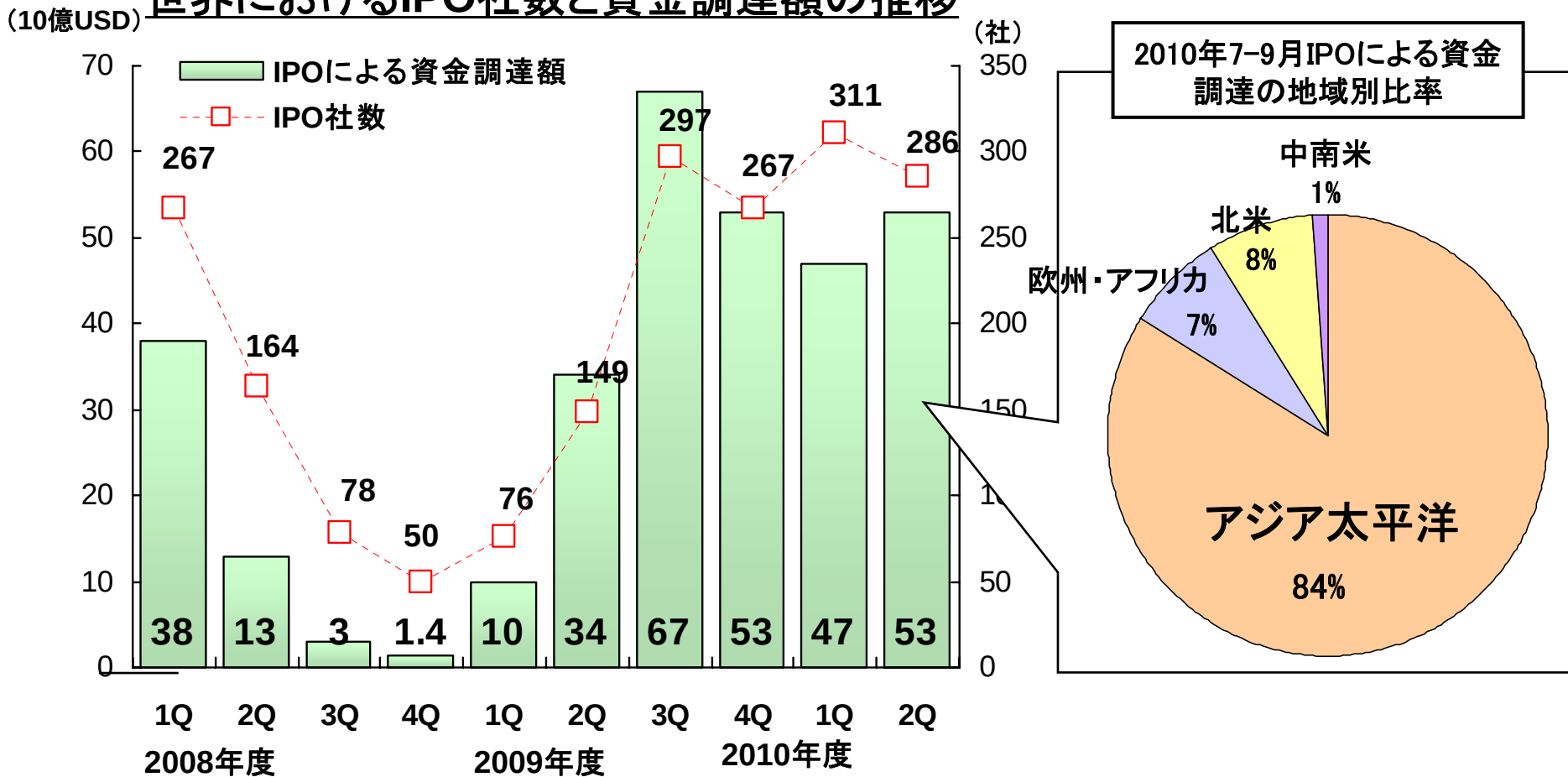
低迷する国内の新規上場

2009年度の上場会社数は2008年度をさらに下回る19社で着地。2010年度上期は前年同程度の9社であり、国内IPO件数は依然として低水準で推移。



世界のIPO、とりわけアジアにおけるIPOは高水準で推移

世界におけるIPO社数と資金調達額の推移



- 2010年7-9月期のIPOにおける資金調達額上位10社のうち5社、上位20社のうち10社が新興国におけるIPO
- 同期間でIPOによる全資金調達額の84%がアジア太平洋地域におけるIPOによる

アセットマネジメント事業における IPO・M&A実績

低調な国内IPOマーケットに依存することなく、
海外マーケットで今後も順調にイクジットする見込み

	～2009年3月期まで				※ 2010年3月期 通期実績				※ 2011年3月期 通期見込み			
IPO・M&A 社数	113				11				19			
投資先内訳	IPO		M&A		IPO		M&A		IPO		M&A	
	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外
	60	31	8	14	4	1	1	5	0	14	1	4

第2四半期末までに、下記4社がIPO・M&AによりEXITを実現しています

4月1日	メディカモバイル(株)	(M&A)
5月18日	Navinfo Co., Ltd.	(深圳)※
6月23日	Harbin Gloria Pharmaceuticals Co. Ltd.	(深圳)※
9月11日	Wisol Co., Ltd.	(KOSDAQ)

※ LP出資しているNew Horizon Capital(2号ファンド) に組入れられている銘柄からのExit社数(2010年3月期:3社 2011年3月期:5社)を含みます。

国内だけでなく、世界に広がる今後のIPO・M&A

第3四半期では既に下記3社がIPOを実現

時期	会社	市場(国名)	組入れファンド
10月 7日	Sunac China Holdings Limited	香港(中国)	New Horizon Capital (2号ファンド)
10月26日	ITEK Semiconductor, Inc.	KOSDAQ(韓国)	KTIC運用ファンド
10月27日	Betfair Group plc	ロンドン(英国)	SBIHD/SBIインベストメント運用ファンド

2010年11月以降、下記12社のIPO・M&Aを見込む

予定時期	予定会社	予定市場(国名)	組入れファンド
第3四半期	A社	テルアビブ(イスラエル) 上記のほか NASDAQ S-1申請済	SBIインベストメント運用ファンド
	B社	ブタペスト(ハンガリー)	SBI European Fund (ハンガリーファンド)
	C社	M&A	New Horizon Capital (2号ファンド)
第4四半期	D社	M&A	SBI Global
	E社	KOSDAQ(韓国)	SBIインベストメント運用ファンド
	F社	香港(中国)	SBIHD/SBIインベストメント運用ファンド
	G社	ホーチミン(ベトナム)	Vietnam Japan Fund (ベトナムファンド)
	H社	台湾(台湾)	SBI & Capital22 (台湾ファンド)
	I社	GTSM(台湾)	SBI & Capital22 (台湾ファンド)
	J社	M&A	New Horizon Capital (2号ファンド)
	K社	M&A	SBIHD
	L社	KOSDAQ(韓国)	KTIC運用ファンド

主要VCとの業績比較

JAFCOと当社アセットマネジメント事業の 2011年3月期第2四半期業績

【業績比較】

(単位: 億円、%)

	売上高	前年同期比 増減率	営業利益	前年同期比 増減率
SBI アセットマネジメント事業	105	▲13.2	27	+8.4
JAFCO (※自己持分方式)	65	▲9.7	6	(注3) —

(注1) JAFCOは自己持分方式で開示、当社は決算に採用しているファンド連結後の数値

(注2) 億円未満を四捨五入して表示

(注3) JAFCOの2010年3月期 第2四半期の営業利益は▲18億円

(注4) JAFCOの2011年3月期 第2四半期の最終損益は6億円 (2010年3月期通期の最終損益は▲22億円)

【投資実行額・社数の比較】

	投資実行額 (単位: 百万円)		投資実行社数	
	当第2四半期	前第2四半期	当第2四半期	前第2四半期
SBI アセットマネジメント事業	37, 106	31, 003	102社	82社
JAFCO	10, 905	11, 125	62社	60社

高パフォーマンスを誇るNew Horizon Fund

New Horizon Fund (1号ファンド、出資比率50%)

- 投資先10社のうちこれまでに8社がEXIT済
- 2009年度末までの当社営業利益への貢献は累計で**87.8億円**、当第2四半期(4-9月)は**13.4億円**

【当社受領分配金額】※		【10年度以降の見積額】(2010年10月27日現在の見込)			
設立～2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2010年度以降の 総分配見積額
70億円	47億円	36億円	25億円	27億円	88億円

※ 売却額より売却に付随する費用を差し引いた額。
注: 分配金見積額は、現在及び将来上場もしくは売却する株式の予想時価から見積もった金額で、これらの金額が確定しているわけではありません。

(単位: 百万USD、括弧内は日本円換算額)

投資残高	累計キャピタルゲイン	含み益
33.4(27.3億円)	266.0(216.6億円)	108.7(88.5億円)

*ファンド全体での金額 *10月27日の為替レート1USD=81.41JPYで日本円に換算

New Horizon Capital (2号ファンド、LP出資、出資比率10%)

- 18社に投資を実行しており、これまでに6社がEXIT済、その他10社も2012年までのEXITを予定
- EXIT済銘柄はすでにファンド全体で348.1億円の含み益を有している(10月27日現在)

EXIT型式	IPO	M&A	Trade Sale	合計EXIT社数
EXIT済社数	4	2	–	6
EXIT予定社数	5	4	1	10

【証券関連事業】

2011年3月期 第2四半期累計

(前年同期比) (前年度下半期比)

売上高	242億円	▲9%	+3%
営業利益	38億円	▲37%	+12%

- 個人株式委託売買代金の減少が続く中、SBI証券の連結営業収益は前年同期比9.8%減、連結営業利益も同28.1%減となったが、投資信託の販売好調による投資信託関連収益の増加等により、前年度下半期比では連結営業収益は2.5%増、連結営業利益は同8.8%増となる。
- 2008年11月に営業開始したSBIリクイディティ・マーケットは短期間で連結業績に多大な貢献をする子会社に成長(今年度上半期の営業利益貢献額は、SBI証券におけるトレーディング益を含め連結ベースで約43億円)

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

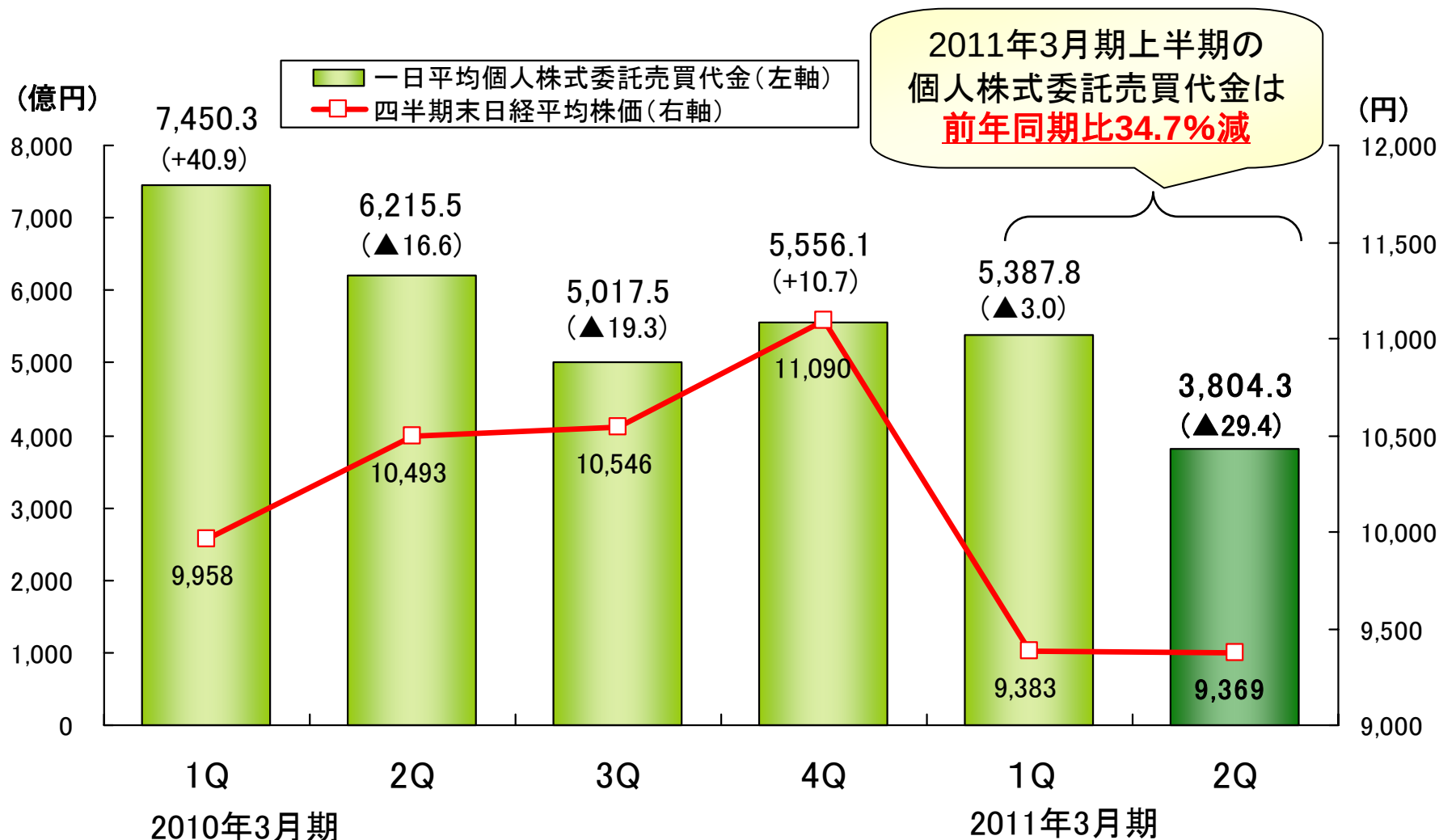
※ 前四半期比および前年同期比は、セグメント変更を考慮して計算しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

個人株式委託売買代金は軟調

個人株式委託売買代金四半期推移 (3市場1部2部合計※、括弧内は前四半期比(%))



※東京・大阪・名古屋証券取引所に上場している内国株券(マザーズ、ヘラクレス、セントレックス含む)

出所: 東証開示資料より当社作成

出遅れ感の強い日本の株式市場

新聞記事

(2010年10月27日付け 日本経済新聞より抜粋)

時価総額2年ぶり高水準

「米国などの金融緩和観測で膨らんだ投資資金が成長期待の高い新興国株式に流入。一部は景気の先行き懸念が残る欧米など先進国株にも回帰し始めており、マネー主導の増加が鮮明だ」

2010年9月以降の各国株価指数の上昇率

(単位: %)

中国	15.3
インド	13.0
ドイツ	12.1
米国	11.5
日本	6.3

※日本、中国は10月26日時点、それ以外は25日時点

リアル証券の2011年3月期上半期業績

(単位: 百万円、%)

	営業収益 (上半期累計)	前年同期比 増減率	四半期純利益		
			上半期実績	前年同期比 増減率	7-9月期実績
野村HD	634,434	▲11.8	4,968	▲87.3	1,051
大和証券G	201,388	▲15.3	▲5,384	—	▲4,192
日興	111,370	+30.1	16,138	▲48.9	5,893
みずほ	163,143	▲7.1	6,396	▲95.3	5,926
三菱UFJ	158,502	▲17.6	※1 19,430	▲13.4	▲3,368
岡三	30,559	▲13.2	907	▲64.2	▲698
みずほインベ	26,473	+1.6	4,590	+4.0	1,957
SMBCフレンド	26,405	▲29.3	2,540	▲72.9	534
東海東京	25,188	▲16.4	2,342	▲37.8	▲238
岩井コスモHD	9,463	※2 ▲28.2	3,991	※2 +375.1	▲540
丸三	7,346	▲13.8	▲297	—	▲353
いちよし	6,101	▲25.2	▲1,199	—	▲989
東洋	5,646	▲17.3	▲769	—	▲389
水戸	4,775	▲17.6	▲963	—	▲671
極東	4,152	▲31.5	831	▲61.7	520
高木	2,317	▲46.6	▲6,379	—	▲6,565
光世	278	▲39.2	▲329	—	▲79

出所: 各社公表資料、百万円未満は切捨て

※1 特別利益として持分変動利益 27,913百万円を計上しており、営業利益は▲6,944百万円

※2 岩井コスモHD(旧岩井証券)は2010年4月16日付でコスモ証券を完全子会社化しているため、前年同期比の算出にあたっては旧岩井証券とコスモ証券を単純合算した数値を使用

SBI証券 2011年3月期上半期 連結業績

低調なマーケット環境が続く中、SBI証券の連結営業利益は前年同期比では減少しているものの、投資信託の販売好調による投資信託関連収益の増加ならびに外国債券の販売増加によるトレーディング損益の増加により前年度下半期比では8.8%増となった

(単位: 百万円、%)

	2010年3月期 上半期 (09年4月～09年9月)	2011年3月期 上半期 (10年4月～10年9月)	前年同期比 増減率	2010年3月期 下半期 (09年10月～10年3月)	2010年3月期 通期
営業収益	24,533	22,117	▲9.8	21,581	46,114
純営業収益	22,611	20,300	▲10.2	19,782	42,393
営業利益	7,499	※ ¹ 5,393	▲28.1	4,955	12,454
経常利益	7,423	※ ² 5,362	▲27.8	4,922	12,345
四半期純利益	4,398	※ ³ 4,829	+9.8	2,913	7,311

※¹ 第2四半期にポイント引当金196百万円を追加計上

※² 営業外費用として投資事業組合(フューチャーベンチャーキャピタル等)運用損245百万円を計上

※³ 特別損失として投資有価証券(ジュビリーホール社)評価損124百万円を計上

2011年3月期上半期業績に影響した特殊要因

(単位: 百万円、%)

特殊要因がなかった場合

	2010年3月期 上半期 (09年4月～09年9月)	2011年3月期 上半期 (10年4月～10年9月)	前年同期 比増減率	特殊要因	2011年3月期 上半期 (10年4月～10年9月)	前年同期 比増減率
営業収益	24,533	22,117	▲9.8	—	22,117	▲9.8
純営業収益	22,611	20,300	▲10.2	—	20,300	▲10.2
営業利益	7,499	5,393	▲28.1	第2四半期にポイント引当金 <u>196百万円</u> を追加計上	5,589	▲25.5
経常利益	7,423	5,362	▲27.8	営業外費用として投資事業組合(フューチャーベンチャーキャピタル等)運用損 <u>245百万円</u> を計上	5,803	▲21.8
四半期純利益	4,398	4,829	+9.8	特別損失として投資有価証券(ジュビラーホ社)評価損 <u>124百万円</u> を計上	5,164	+17.4

リアル証券の業績が厳しい中、 利益を確保している主要オンライン証券

主要オンライン証券の2011年3月期上半期連結業績比較

(単位:百万円、%)

	営業収益	前年同期比 増減率	四半期 純利益	前年同期比 増減率
SBI証券	22,117	▲9.8	4,829	+9.8
マネックス ※	12,685	+11.5	1,600	▲21.4
楽天(非連結)	11,608	▲2.8	2,585	▲6.4
松井	11,026	▲17.6	3,305	▲19.1
カブドットコム(非連結)	7,020	▲13.7	1,487	▲17.7

(データ出所:各社開示資料より当社にて集計)

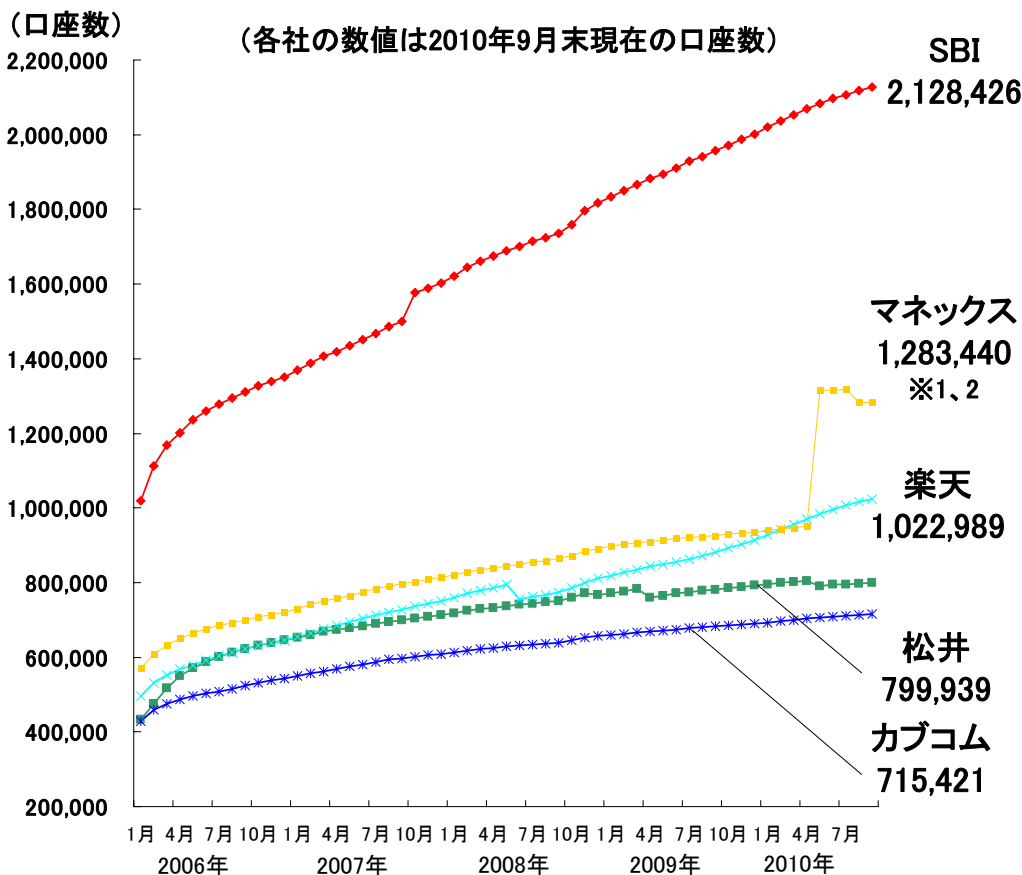
※ 2010年5月1日付でマネックス証券とオリックス証券が合併

強固な顧客基盤を有するSBI証券 ①

SBI証券の獲得口座数は順調に推移しており、2009年12月には
オンライン証券で初めて200万口座を突破

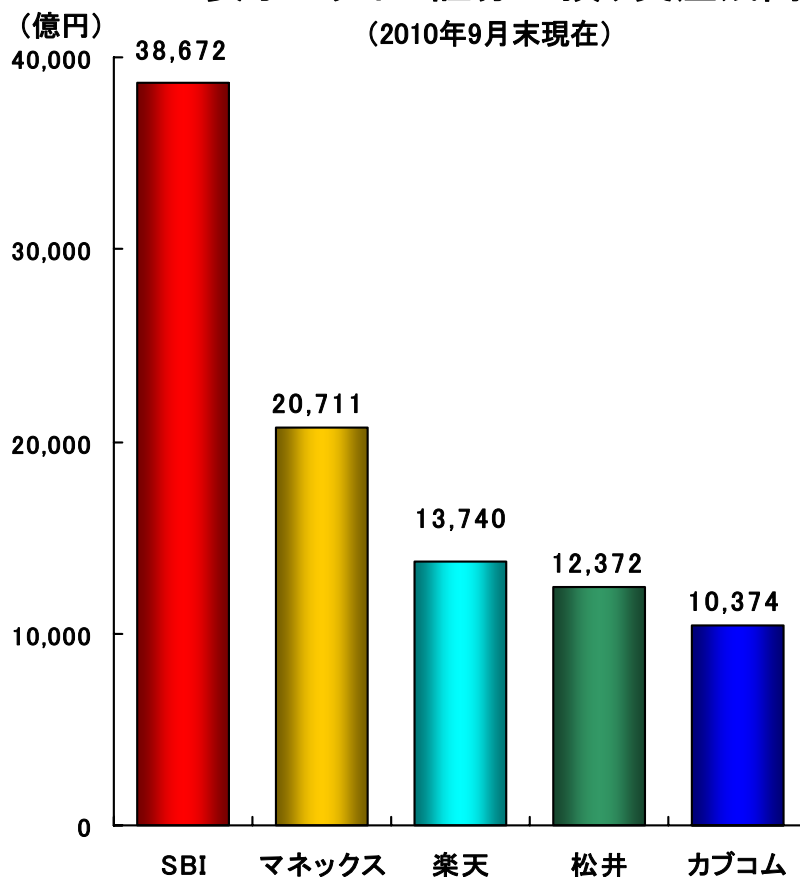
主要オンライン証券5社の口座数推移

(各社の数値は2010年9月末現在の口座数)



主要オンライン証券の預り資産残高

(2010年9月末現在)



出所: 各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計

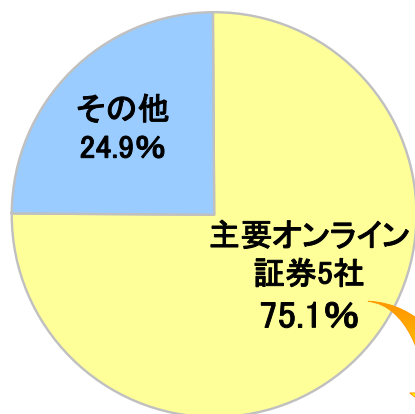
※1 2010年5月以降のマネックス証券における口座数はマネックス証券と旧オリックス証券の単純合計で、重複口座(2010年9月末時点 約10万口座)を含む。

※2 旧オリックス証券の口座数は2009年12月末時点で372,347口座(2010年1月以降非開示)。

強固な顧客基盤を有するSBI証券 ②

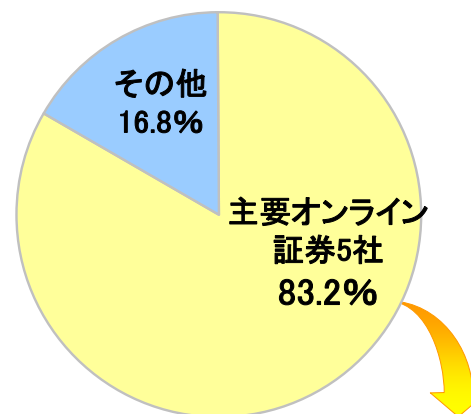
SBI証券は個人株式委託売買および個人信用取引委託売買においても引き続き他社を大きく上回るシェアを誇る

個人株式委託売買代金シェア
2011年3月期 上半期シェア
(2010年4月～2010年9月)



	シェア	前年同期比
SBI証券	37.2%	+2.6p
楽天証券	15.6%	+1.4p
松井証券	8.3%	0p
マネックス証券	7.3%	+1.8p
カブドットコム証券	6.8%	+1.0p

個人信用取引委託売買代金シェア
2011年3月期 上半期シェア
(2010年4月～2010年9月)



	シェア	前年同期比
SBI証券	41.1%	+2.4p
楽天証券	17.3%	+1.2p
松井証券	9.0%	▲0.4p
カブドットコム証券	8.3%	+1.5p
マネックス証券	7.6%	+2.0p

出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計

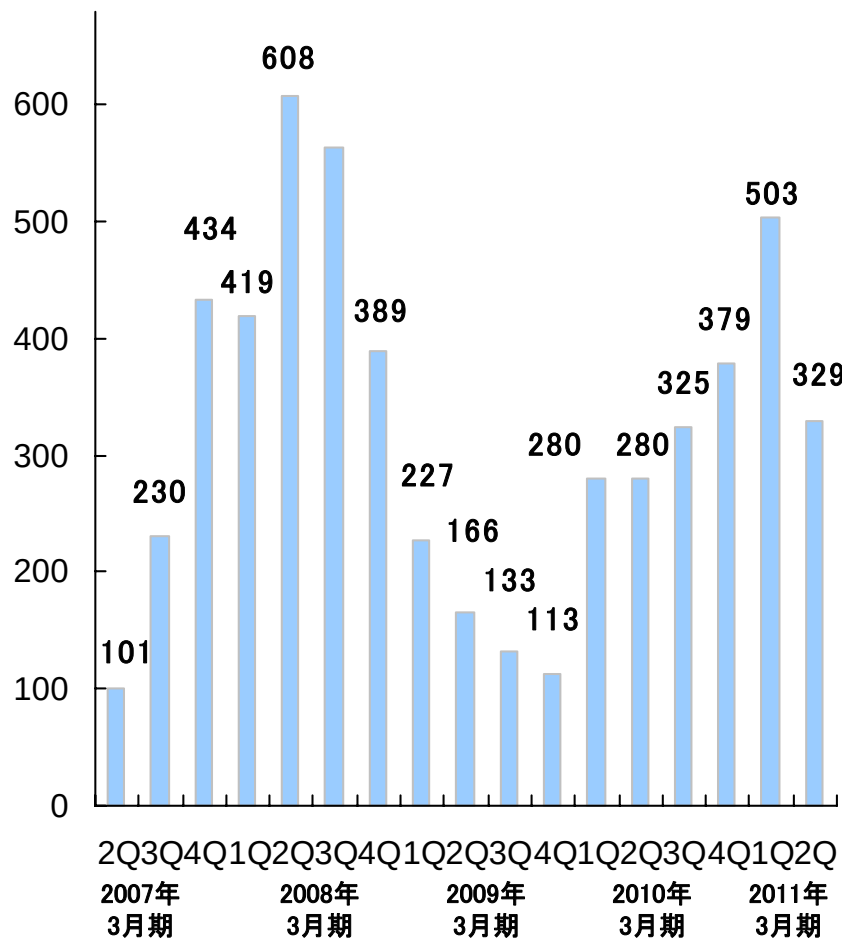
※ 個人株式委託売買代金、個人信用取引委託売買代金は東証・大証・名証の各1部・2部とJASDAQを合算

※ SBI証券はインターネット取引のみで算出

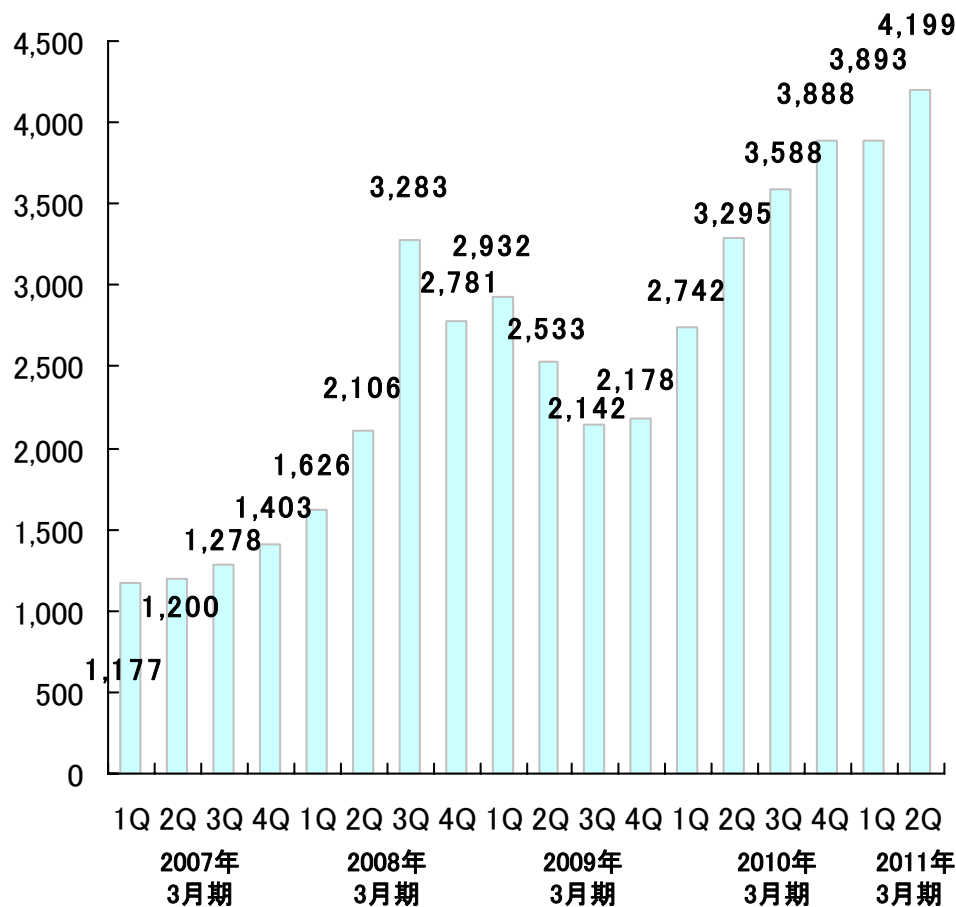
※ 2010年5月1日付でマネックス証券とオリックス証券が合併

SBI証券 投資信託販売額ならびに残高の推移

(億円) 投資信託販売額(四半期)の推移



(億円) 投資信託 四半期末残高の推移

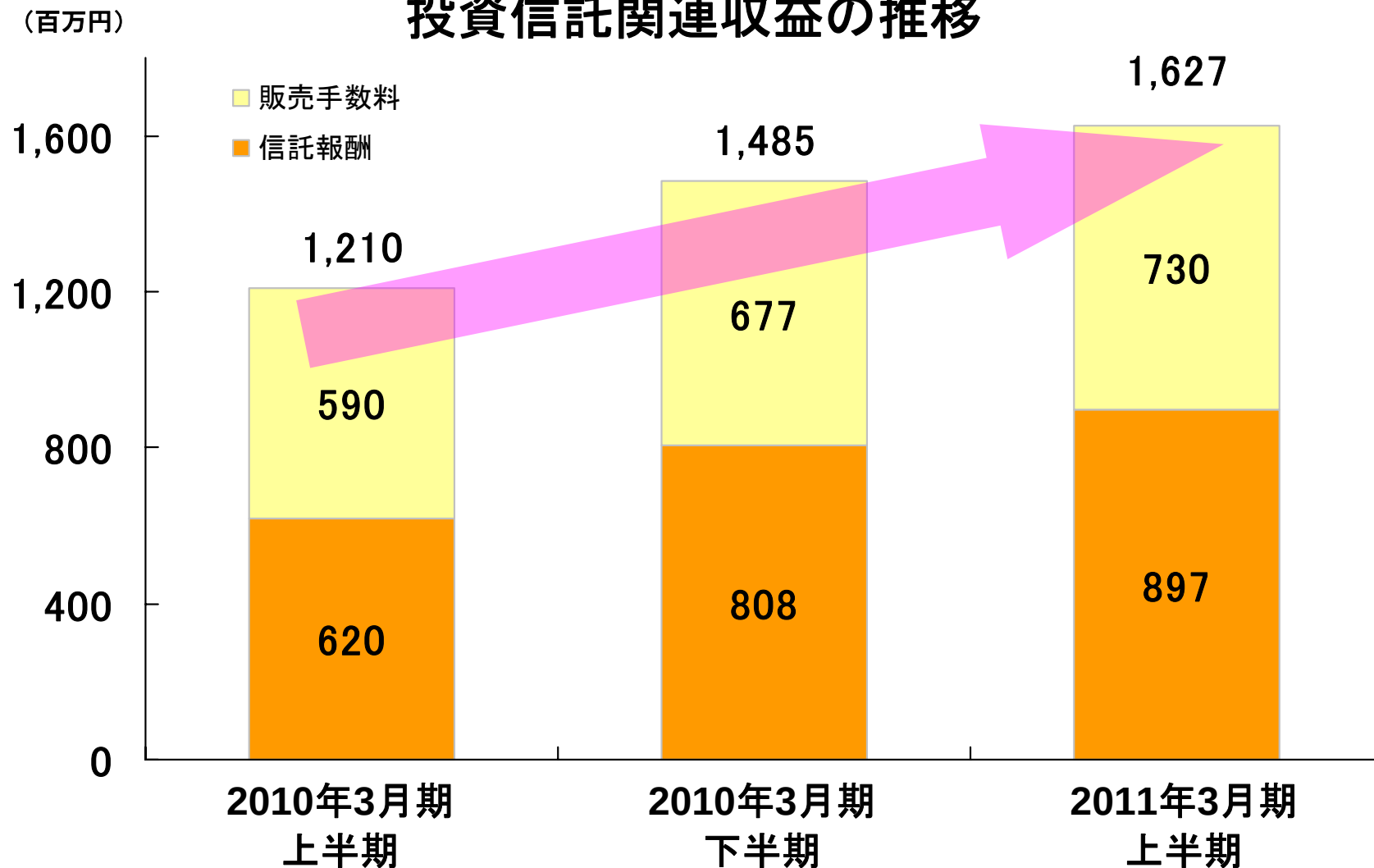


※MMF、中国ファンドを含む。

※MMF、中国ファンドおよび対面口座分の預りを含む

SBI証券では投資信託への注力が奏功し、 投資信託関連収益は増加基調

投資信託関連収益の推移



※1. 販売手数料及び信託報酬の合計(信託報酬には、MRFを含む。)

※2. 信託報酬は「その他の受入手数料」に含まれる

SBI証券 外国債券販売の実績

債券販売額(外債)の推移

外国債券の取組み強化

◆注力商品

- ・ブラジルレアル建債券 
- ・南アフリカランド建債券 
- ・オーストラリアドル建債券 
- ・トルコリラ建債券 
- ・米国国債(既発) 

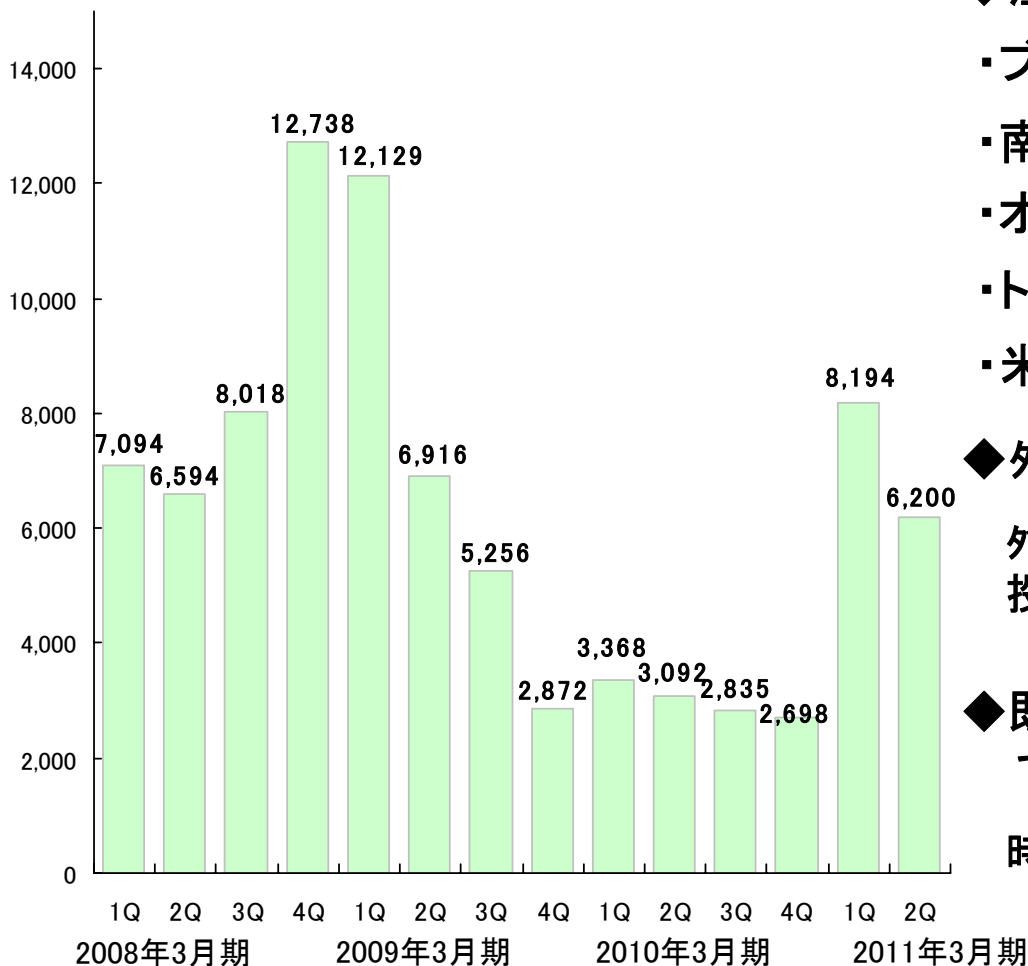
◆外貨決済サービス

外債の運用成績を左右する「為替」について
投資家が自分で判断・決定することが可能

◆既発債券の買付、売却のインターネットでの取扱い

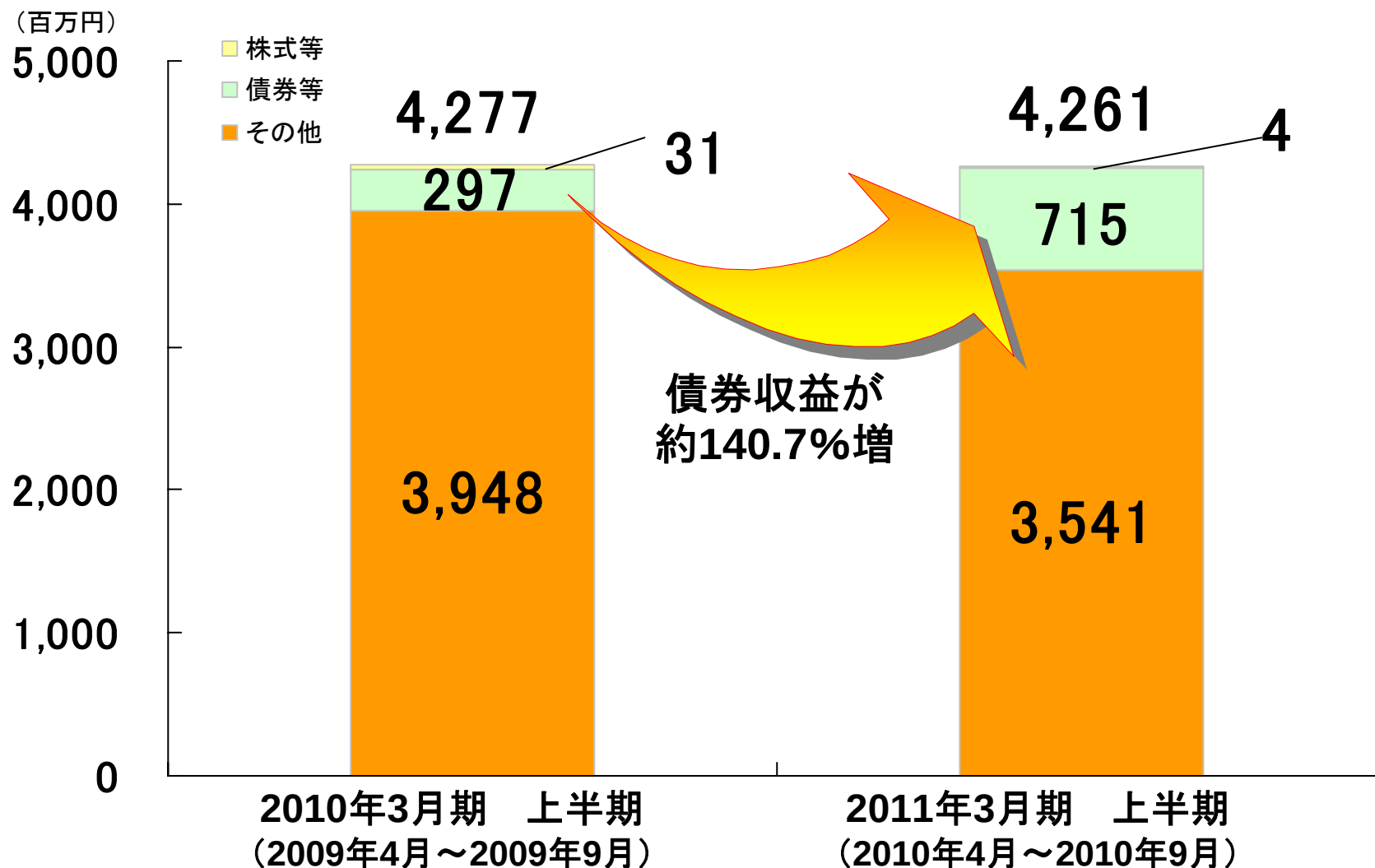
時価情報の照会もインターネットで簡単に

(百万円)



好調な外国債券販売が スプレッド縮小によるFX収益の減少をカバー

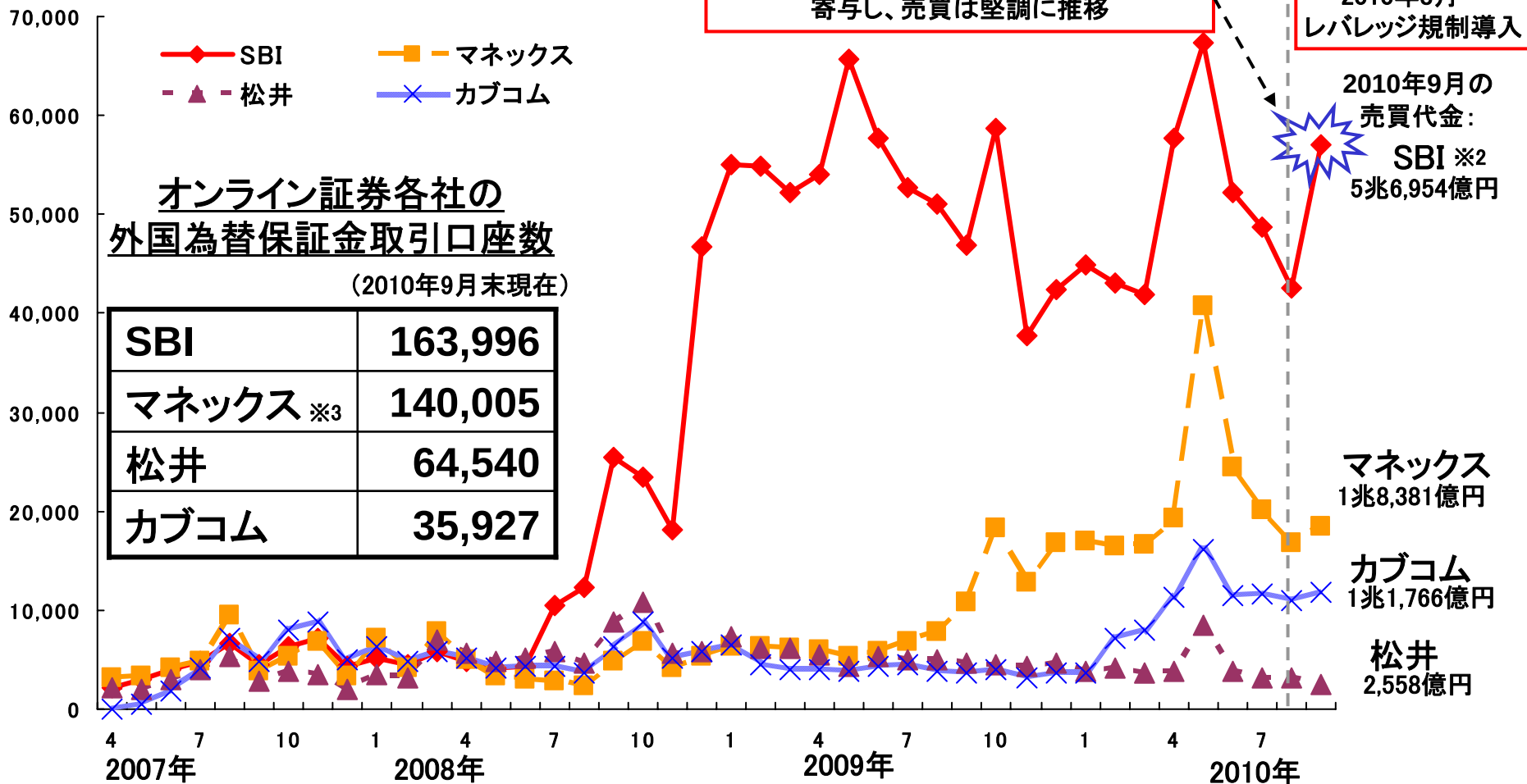
トレーディング損益(連結)の推移



8月1日よりFX取引に係るレバレッジ規制が導入されたものの、 SBI証券における売買代金は引き続き高水準を維持

オンライン証券4社※1の外国為替保証金取引売買代金の推移

(単位: 億円)



※1 SBI証券とデータが開示されているマネックス証券、松井証券、カブコム証券の計4社

※2 2008年11月～2009年2月は、『SBI FX』及び『SBI FX α』の売買代金合計

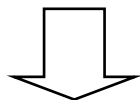
※3 2010年9月末における外国為替証拠金取引の口座数には、一部重複口座を含む

出所: 各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計

SBIリクイティ・マーケットを活用し、高い流動性を有することで、 SBI証券の提供するFX取引のサービスが更に拡充

13通貨ペアのスプレッドを縮小

米ドル/円など13通貨ペアの
スプレッド縮小キャンペーンを実施
(2010年8月9日～8月31日)



好評につき9月より恒常化

主要通貨ペアのスプレッド変更内容

通貨ペア	旧	8月9日～
米ドル/円	2銭	1～2銭
ユーロ/円	4銭	3～4銭 ※1
ポンド/円	6銭	5～6銭 ※2

「逆手数料」キャンペーンの実施 (2010年9月7日～10月29日)

各通貨の取引数量に応じ、現金を還元

投資家



FX取引注文



キャッシュバック

逆手数料

SBI証券

SBI FX α

スプレッドおよびカバー取引による収益

商品性を高め、新規顧客獲得と流動性の向上を図る

※1 キャンペーンにより10/29まで2～4銭

※2 キャンペーンにより10/29まで3～5銭

SBIリクイディティ・マーケットの業績推移

2010年3月期

(単位:億円)

	1Q	2Q	上半期	3Q	4Q	下半期	通期
営業収益(売上高)	28.2	27.9	56.1	25.4	24.2	49.6	105.7
内、SBI証券の トレーディング益 (SBI証券:営業利益)	17.9	17.5	35.5	15.9	14.8	30.7	66.2
営業利益	8.6	8.4	17.0	7.5	6.3	13.8	30.8

2011年3月期

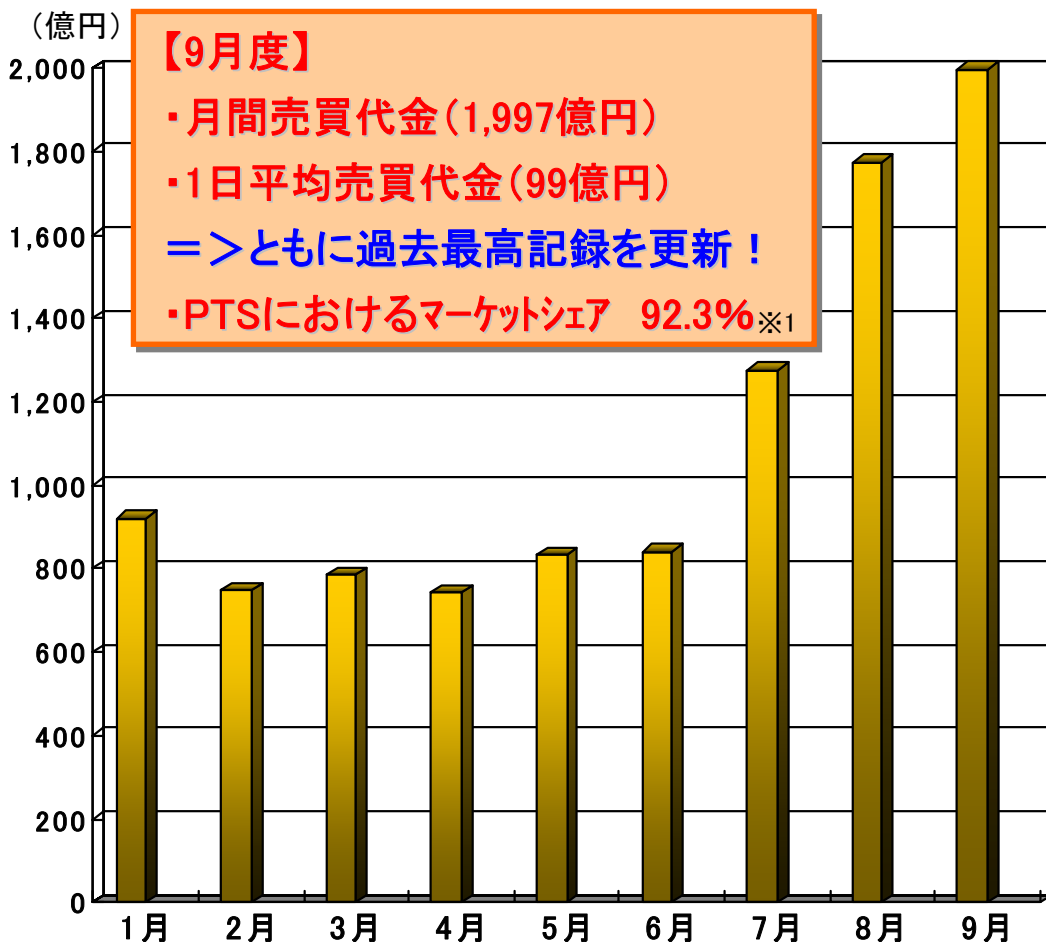
	1Q	2Q	上半期
営業収益(売上高)	28.8	<u>22.2</u>	<u>50.9</u>
内、SBI証券の トレーディング益 (SBI証券:営業利益)	17.1	<u>13.1</u>	<u>30.1</u>
営業利益	7.7	<u>4.9</u>	<u>12.6</u>

**接続する事業者の拡充により、
更なる流動性(取引量)の拡大と収益の増加を目指す**

参加証券会社の拡充により 取引を拡大させるジャパンネクストPTS

～今年度に入り、新たに外資系証券4社が接続を開始～

ジャパンネクストPTS 売買代金の推移(2010年)



(※) 売買代金はシングルカウントとなります。

【取引参加企業(12社)】

SBI証券※2、楽天証券※2、クリック証券※2
 ゴールドマン・サックス証券、クレディ・スイス証券※2
 メリルリンチ日本証券※2、UBS証券
 モルガン・スタンレーMUFG証券、インスティテュート証券※3
BNPパリバ証券※3、ドイツ証券※3
シティグループ証券※3

投資家の利便性向上を目指して様々な
施策・サービスを開始

- ・日本証券クリアリング機構による債務引受けの開始(決済の効率化、決済リスクの解消)
- ・マーケットデータ配信先の追加
ロイター、QUICK、モーニングスター(7/22～)、
Bloomberg(8/2～)

※1 SBIジャパンネクスト証券調べ、クロッシングを除く

※2 資本参加 ※3 2010年度から新たに接続を開始

【ファイナンシャル・サービス事業】

2011年3月期 第2四半期累計

(前年同期比) (前年度下半期比)

売上高	145億円	+21%	+6%
営業利益	4億円	+43%	— (注)

(注)2010年3月期下半期の営業損益は▲1億円

- 上場子会社3社(モーニングスター、ゴメス・コンサルティング、SBIベリトランス)の業績は前期に底を打ち、いずれも前年同期比で増収増益を達成。
- 2007年9月開業の住信SBIネット銀行は順調に顧客基盤を拡大しており、2011年3月期第2四半期(7~9月)業績は、第1四半期(4~6月)よりも好調に推移した模様(11月12日発表予定)。

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 前四半期比および前年同期比は、セグメント変更を考慮して計算しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

2011年3月期第2四半期 上場子会社各社業績

- ・ モーニングスターの連結業績は、主要顧客となる金融機関の広告・販促の売上増およびコスト削減等により前年同期比で売上高・利益の全項目において増収増益を達成。
- ・ ゴメス・コンサルティングは、金融機関を中心に受注が増加したことにより、前年同期比で売上高が増加。前期からの経費削減も奏功し、営業利益は黒字を確保、純利益は4四半期連続の増益を達成。
- ・ SBIベリトランスは、EC市場の拡大などを背景に、トランザクション件数は前年同期比26.8%増の1,836万件と順調に増加。なお10月21日には、1億円を上限とする自己株式の取得を発表。

(単位:百万円、()内は前年同期比増減率%)

※1	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
モーニングスター	1,179 (+2.2)	254 (+38.6)	308 (+29.4)	171 (+26.5)
ゴメス・ コンサルティング	210 (+11.6)	16 (-)※2	27 (+163.3)	18 (+105.5)
SBIベリトランス	2,888 (+18.1)	570 (+11.9)	574 (+12.0)	341 (+17.4)

※1 モーニングスター、SBIベリトランスは連結業績、ゴメス・コンサルティングは単体の業績を掲載しております。

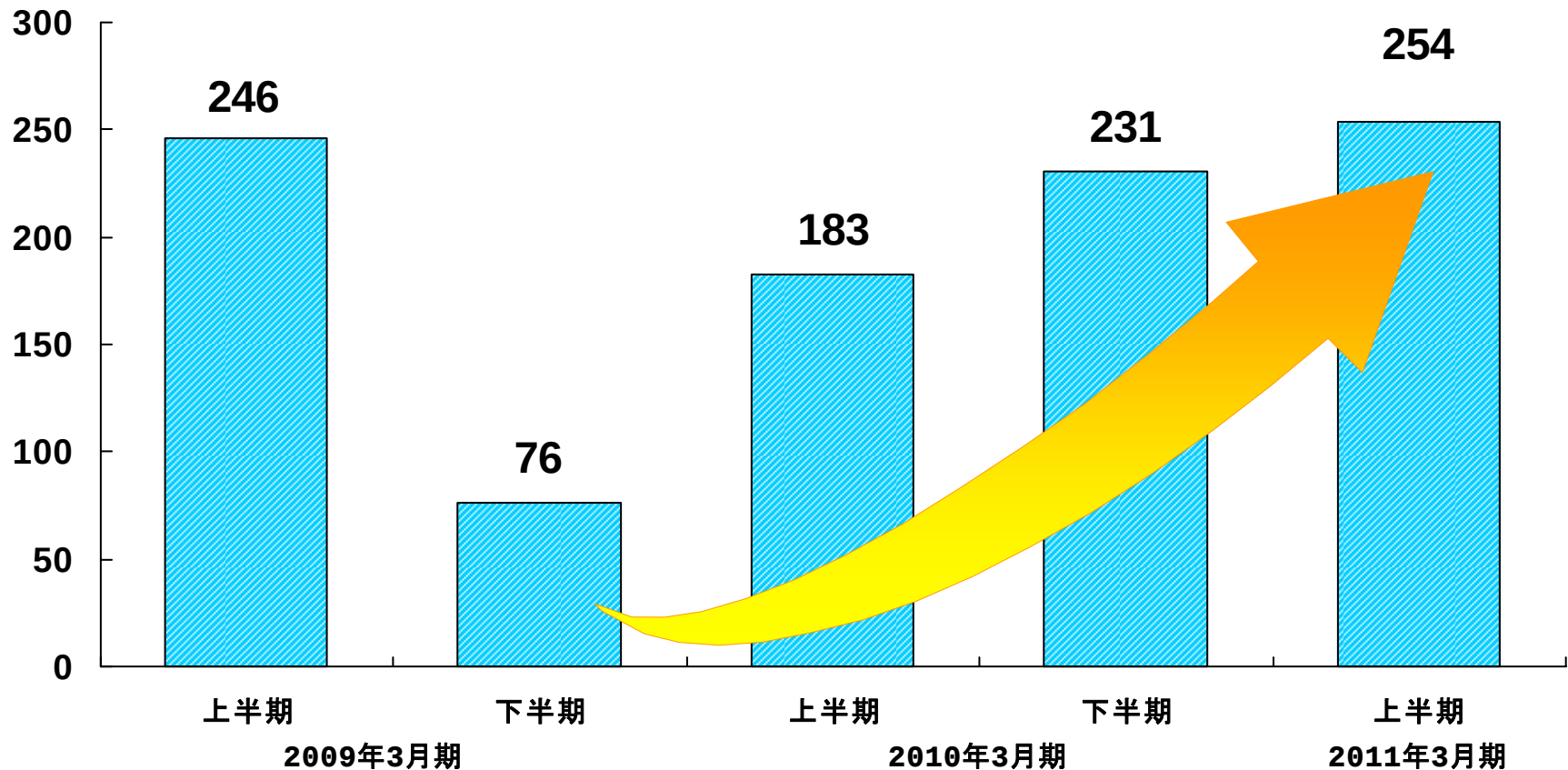
※2 前年同期の営業損益は0となっております。

モーニングスター 連結営業利益の半期推移

モーニングスターの連結営業利益は前下半期(09年10月-10年3月)比10.2%増、前年同期(09年4-9月)比では38.6%増と回復を続ける

(営業利益:百万円)

モーニングスター 連結営業利益の半期推移



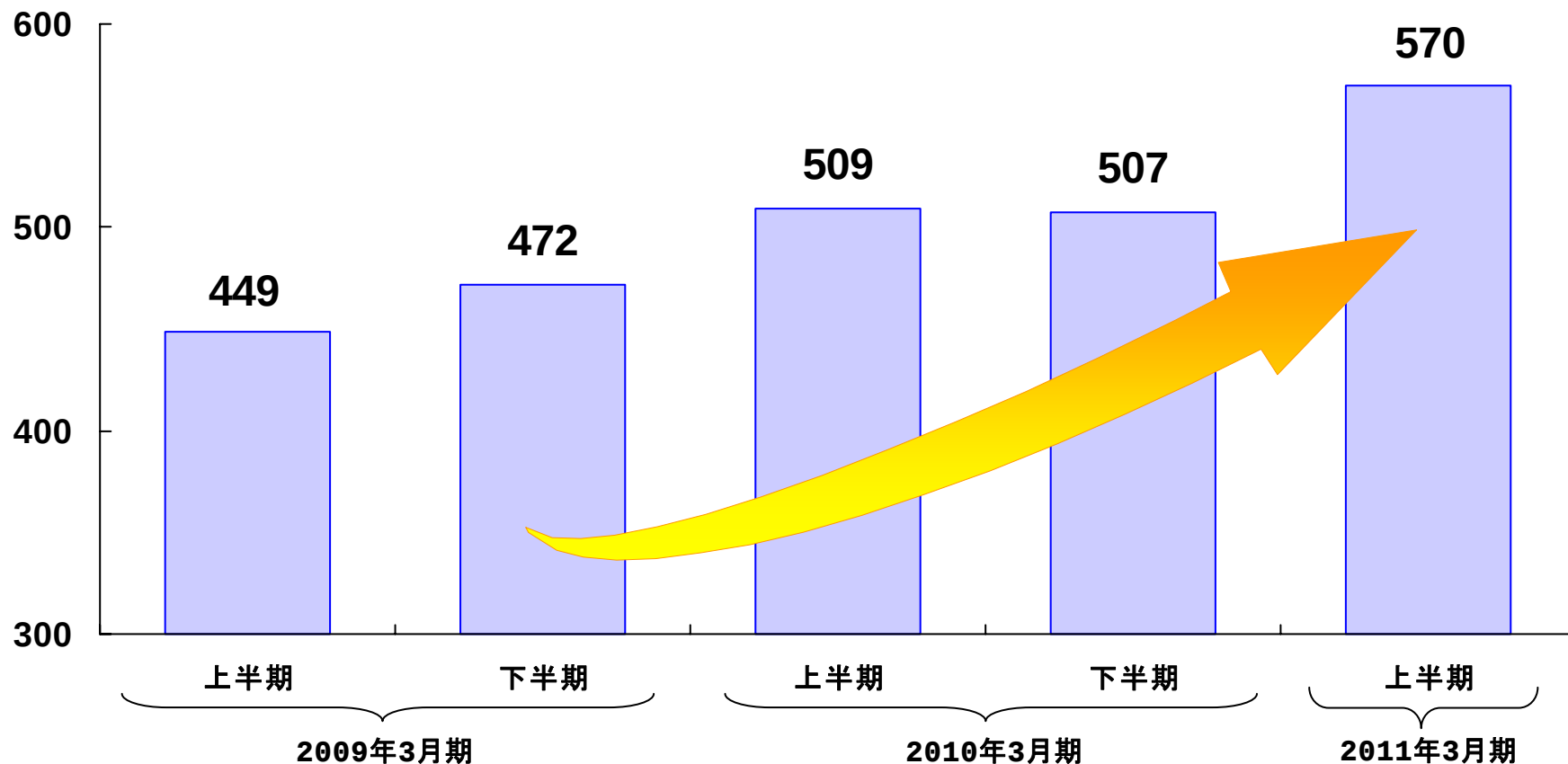
SBIベリトランス 連結営業利益の半期推移

SBIベリトランスの連結営業利益は前下半期(09年10月-10年3月)比
12.4%増、前年同期(09年4-9月)比では11.9%増と堅調に推移

SBIベリトランス 連結営業利益の半期推移

※(2010年10月21日)
1億円を上限とする自己
株式の取得を発表

(営業利益:百万円)



【住宅不動産関連事業】

2011年3月期 第2四半期累計

(前年同期比) (前年度下半期比)

売上高	86億円	+36%	▲21%
営業利益	12億円	— (注)	+14%

(注)2010年3月期上半期の営業損益は▲2億円

- SBIライフリビングは、インターネットメディア事業が引続き堅調に推移していることから、2011年3月期上半期は営業黒字を確保
- SBIモーゲージは住宅ローン実行残高を順調に積み上げ、2010年9月末現在では7,565億円と順調に拡大

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 前四半期比および前年同期比は、セグメント変更を考慮して計算しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

SBIライフリビングは第1四半期に引き続き、 第2四半期も堅調に推移

インターネットメディア事業(チケット流通センター・ムスビー等の生活関連サイト)が収益を牽引し、当上半期は損益黒字を確保。

(単位:百万円)

	2010年3月期 上半期 (09年4月～09年9月)	2011年3月期 上半期 (10年4月～10年9月)	前年同期比 増減率/増減額	2010年3月期 下半期 (09年10月～10年3月)	2010年3月期 通期
売上高	1,442	1,838	+27.4%	4,174	5,616
営業利益	▲69	161	+231	238	169
経常利益	▲103	106	+210	173	70
当期純利益	▲104	※ 7	+112	131	27

※特別損失8百万円の計上⇒固定資産除却損2百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額6百万円。
繰延税金資産の一部取り崩し等による法人税等調整額89百万円の税金費用を計上。

2. SBIグループの「ブリリアントカット化」に向けた進捗状況

- (1) 主な事業会社の状況
- (2) 継続する全社的な販管費削減に向けた取り組み
- (3) 収益力の高い海外事業体制の構築とさらなる拡大

「ブリリアントカット化」を目指すSBIグループ主要事業体

SBIグループ 主要50事業体 (SBIホールディングスおよび7つの海外現法・事務所を除く)

2010年3月期上半期

黒字会社・事業部

29社・事業部
営業利益：142億円

赤字会社・事業部

12社・事業部
営業損失：▲27億円

新設子会社／
新規買収子会社

(2009年4月以降に事業開始
(一部予定)、または買収により
グループ会社となった会社)

2011年3月期上半期

30社・事業部
営業利益：135億円

黒字に転換した会社・事業部(2社)

- SBIH 不動産事業部
- SBIライフリビング

11社・事業部
営業損失：▲32億円

新たに赤字となった会社(SBIポイントユニオン)

9社

グループ会社化済(5社)： ウォール・ストリート・ジャーナル・ジャパン(2009年5月設立)
SBIゲオマーケティング(2009年11月設立)
SBI Global Investment(2010年6月連結子会社化)
KTIC(2010年7月持分法適用関連会社化)
SBIクレジット(7月連結子会社化)

開業準備中(4社)： SBILミット、SBIプロスパー、中国証券報社との合弁会社、ネット生保準備会社

黒字会社・事業部の前年同期比変動要因分析

2010/3期上半期：黒字会社・事業部

29社 142億円

	社数	前年同期比	
増益	18社	+17億円	SBIモーゲージ、SBIインベストメント、住信SBIネット銀行等 ⇒黒字会社のうち6割以上が増益基調を続ける
減益	10社	▲27億円	SBI証券(21億円減益)：個人委託売買代金の低迷 SBIリクイディティ・マーケット(4億円減益)：制度変更(レバレッジ規制)の後遺症及び為替相場のボラティリティ低下が主要因 ⇒2社合計で25億円の減益と大半を占める
黒字転換	2社	今上半期には営業利益 合計3億円を計上	SBIH不動産事業部、SBIライフリビング (前上半期には営業損失合計5億円を計上)
赤字転落	1社	前上半期には営業利益 0.1億円を計上	SBIポイントユニオン (今上半期には営業損失0.3億円を計上)

2011/3期上半期：黒字会社・事業部

30社 135億円

グループシナジーの更なる追求や、株式・為替市場の影響を受けにくい事業の拡大により、
利益の安定と拡大を目指す

赤字会社・事業部の前年同期比変動要因分析

2010/3期上半期：赤字会社・事業部

12社 ▲27億円

	社数	前年同期比	
赤字縮小	5社	+1億円	SBIネットシステムズ、SBIオートサポート、オートックワン、等
赤字拡大	5社	▲11億円	SBIカード(8億円の赤字拡大)、SBIアラプロモ(2億円の赤字拡大)、SBIジャパンネクスト証券、等
黒字転換	2社	前上半期には営業損失合計5億円を計上	SBIH 不動産事業部、SBIライフリビング (今上半期には営業利益合計3億円を計上)
赤字転落	1社	今上半期には営業損失0.3億円を計上	SBIポイントユニオン (前上半期には営業利益0.1億円を計上)

2011/3期上半期：赤字会社・事業部

11社 ▲32億円

⇒2013年9月(新設会社は設立後3年以内)までに全社黒字化を目指す

※黒字化目処の立たないものは清算
或いは売却の方針

新設子会社／新規買収子会社(全9社)の見通し

(2009年4月以降に事業開始(一部予定)、または買収によりグループ会社となった会社)

3社は今期黒字化の予定

- 韓国投資会社KTIC(2010/12期上期営業利益:1.7億円)、SBI Global Investment(2011/3期1Q営業利益:0.3億円)の2社は既に黒字化
- 中国証券報社と設立する合併会社も、黒字の広告子会社(前期純利益:約2億円)が移管されることから創業より黒字を予定

1社も来期黒字化の予定

- 2010年7月に子会社化したSBIクレジット(旧ジー・ワンクレジットサービス)は、来期3億円の営業黒字を見込む
※今期は買収時の会計基準変更により一時的に収益悪化し、赤字計上

(1) 主な事業会社の状況

- ① 黒字かつ収益拡大している企業
(SBIモーゲージ、住信SBIネット銀行)
- ② 新設および新規買収会社のうち、
早期黒字化が見込まれる企業
(KTIC、SBI Global Investment、SBIクレジット、
中国証券報社と設立する合併会社)
- ③ 3年以内の黒字化を目指す赤字企業
(SBI損保、SBIオートサポート)

① 黒字かつ収益拡大している企業
(SBIモーゲージ、住信SBIネット銀行)

順調に業績を拡大するSBIモーゲージ

住宅ローン実行額の急激な伸長に伴い
営業利益、経常利益、四半期純利益ともに2倍以上に増加

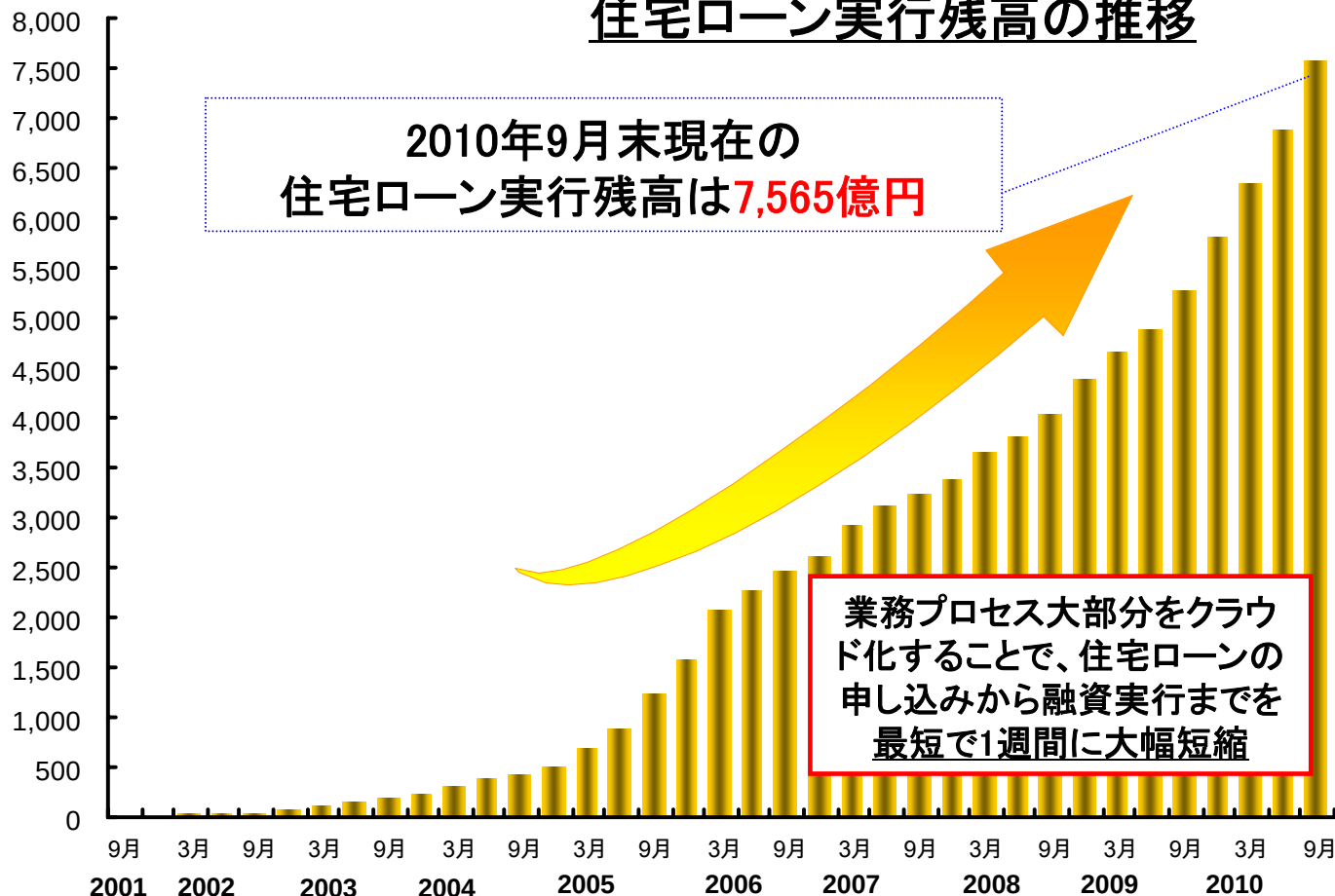
(単位:百万円、%)

	2010年3月期 上半期 (09年4月～09年9月)	2011年3月期 上半期 (10年4月～10年9月)	前年同期比 増減率	2010年3月期 下半期 (09年10月～10年3月)	2010年3月期 通期
売上高	2,620	4,126	+57.5	3,657	6,278
営業利益	503	1,140	+126.6	1,078	1,582
経常利益	512	1,154	+125.2	1,082	1,595
当期純利益	222	963	+332.4	575	797

韓国上場の主幹事を韓国のHana Daetoo Securitiesに決定、
来年度中の公開に向けて準備中

金利優遇策を追い風に残高を一層拡大させるSBIモーゲージ

住宅ローン実行残高の推移



融資実行額

2010年3月期上半期

805億円



2011年3月期上半期

1,478億円

(83.6%増加)

- **2.160%(※)**という最低水準の金利を提供

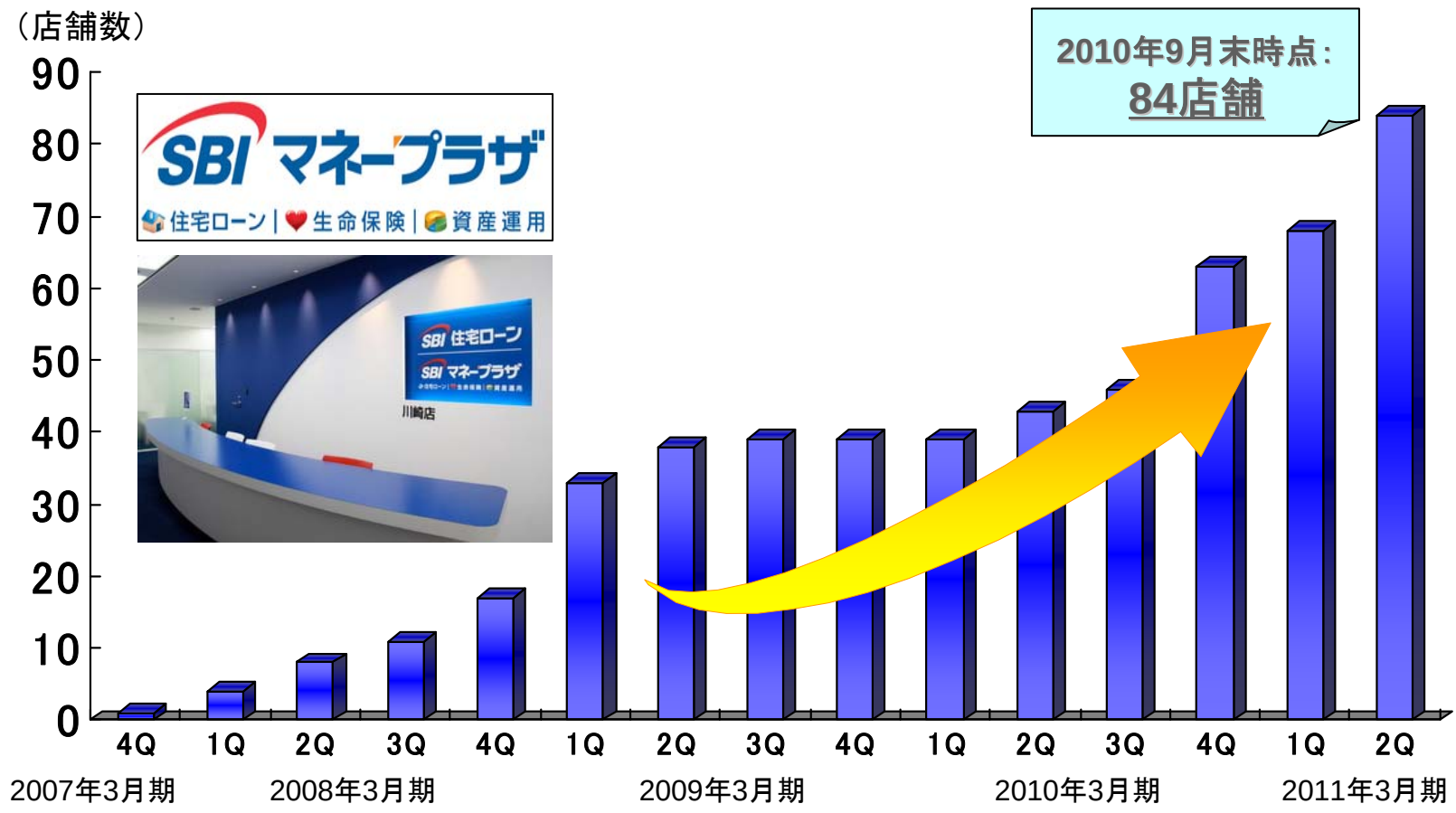
(※) 買取型・借入期間21～35年の2010年10月融資実行金利(団信別)

- 2010年4－9月累計「フラット35」シェア: **14.73%** 全339取扱金融機関中 **第1位**

(SBIモーゲージ調べ。シェアは融資実行金額による。保証型含む)

リアルチャネルの増加がSBIモーゲージの業績拡大に大きく貢献

SBIマネープラザ/住宅ローンショップ店舗数の推移

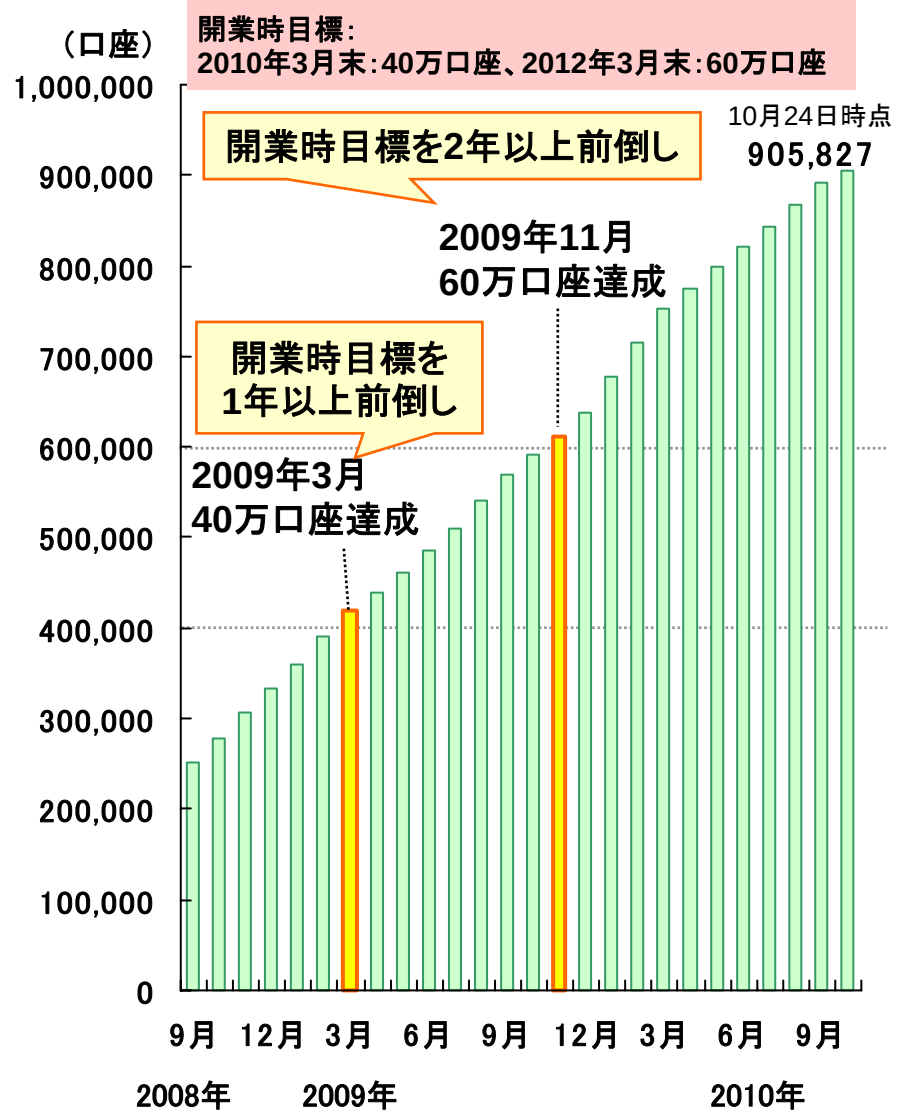


住宅ローンを起点とし、今後は生命保険のクロスセルを推進

住信SBIネット銀行の口座数ならびに預金残高の推移

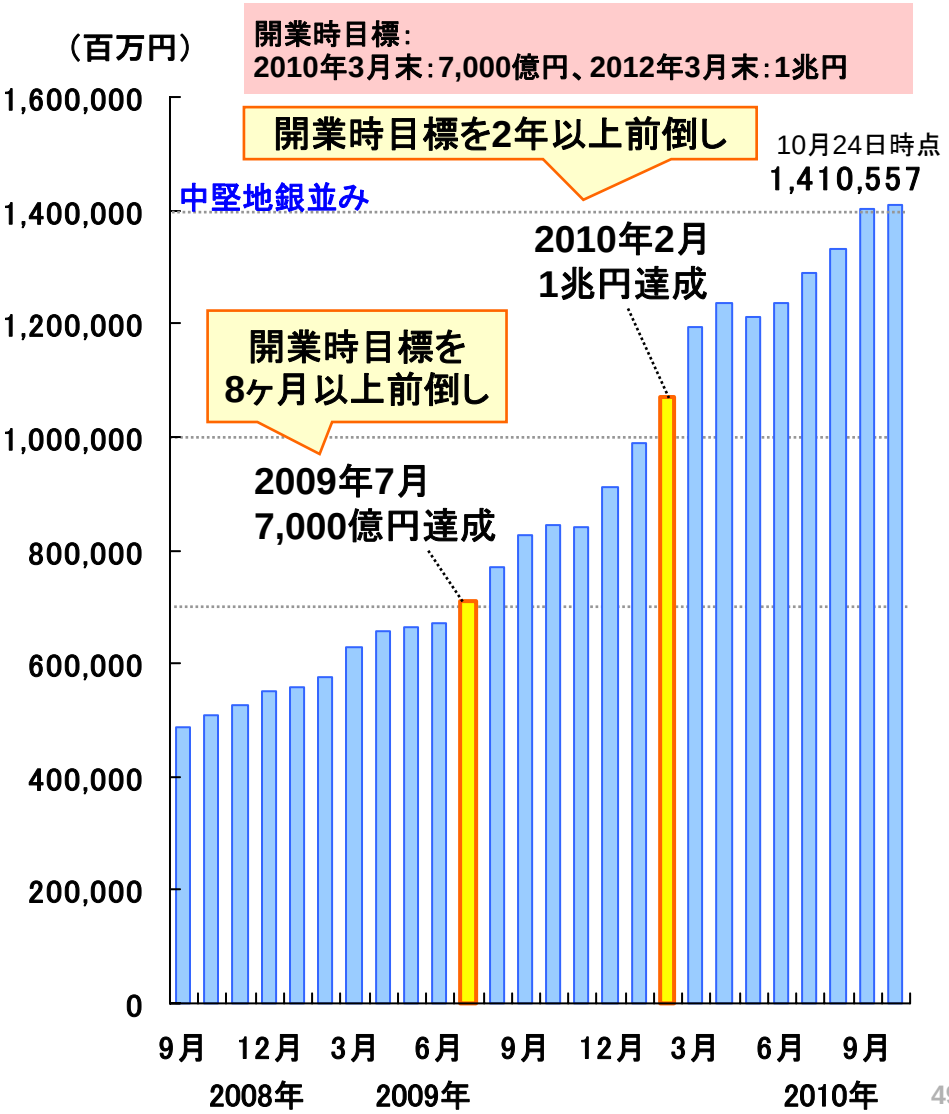
口座数の推移

2010年9月末: 892,009口座



預金残高の推移

2010年9月末: 1兆4,027億円



ソニー銀行 VS. 住信SBIネット銀行①

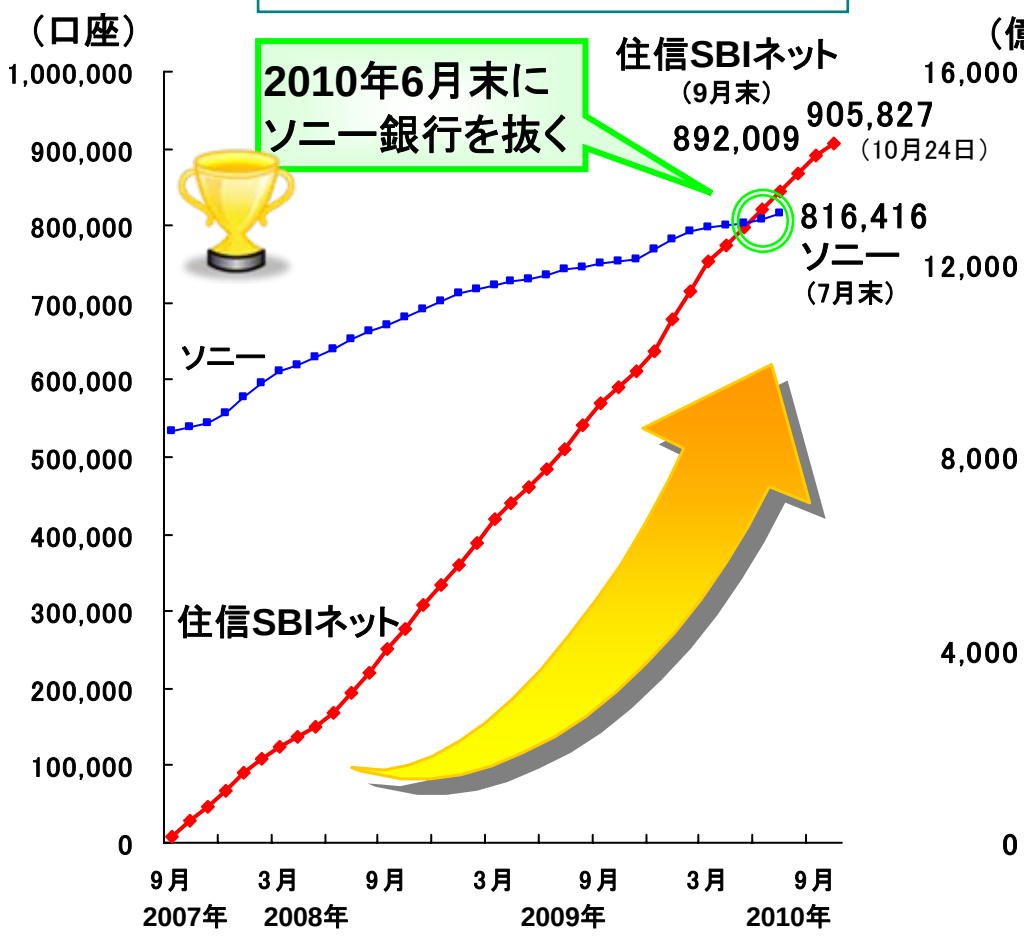
(2001年6月開業) (2007年9月開業)

※ソニー銀行は2010年8月以降、月次数値未公表

口座数の推移

(2007年9月末～2010年9月末)

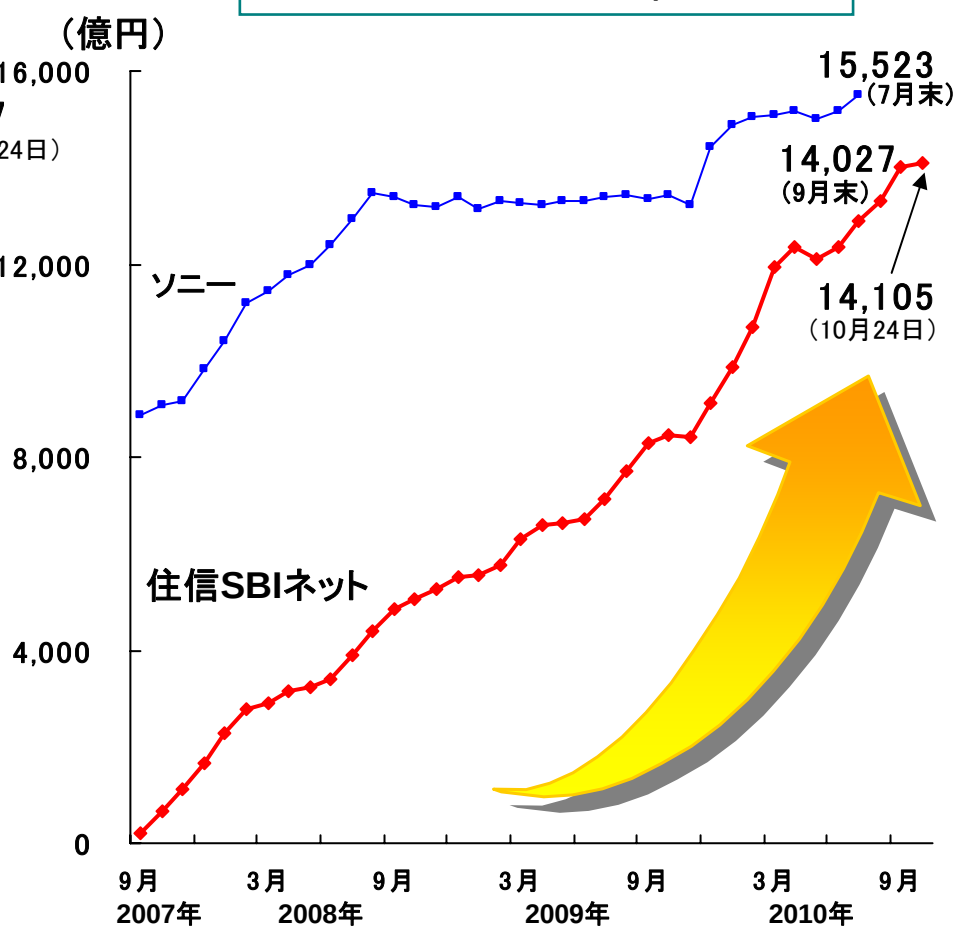
10月24日時点: 905,827口座



預金残高の推移

(2007年9月末～2010年9月末)

10月24日時点: 1兆4,105億円



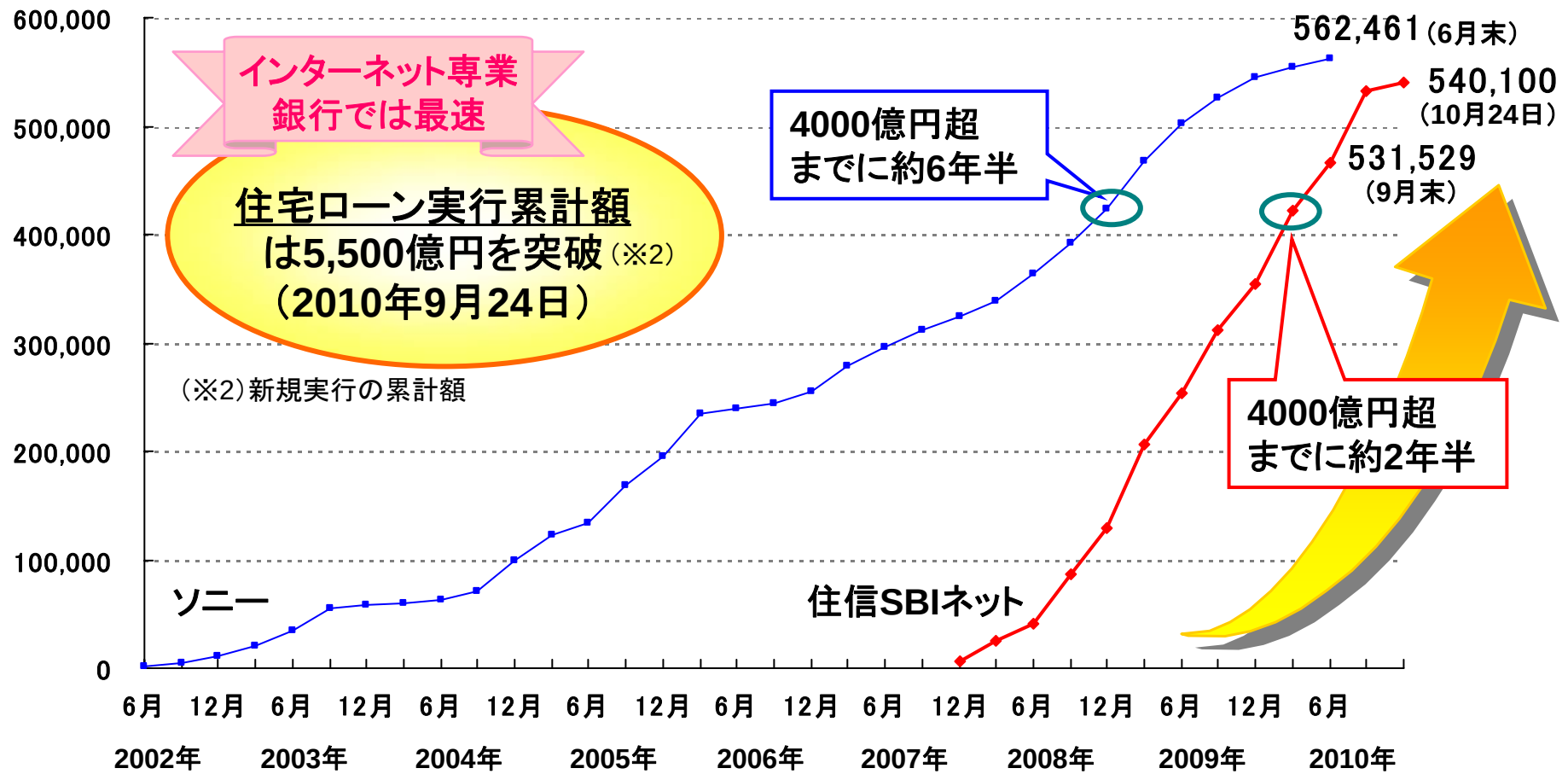
住信SBIネット銀行は口座数・預金残高ともにこの1年間で約2倍に拡大

ソニー銀行 VS. 住信SBIネット銀行②

(2001年6月開業) (2007年9月開業)

住宅ローン残高(※1)の推移 (※1)新規実行の累計額から返済分を控除

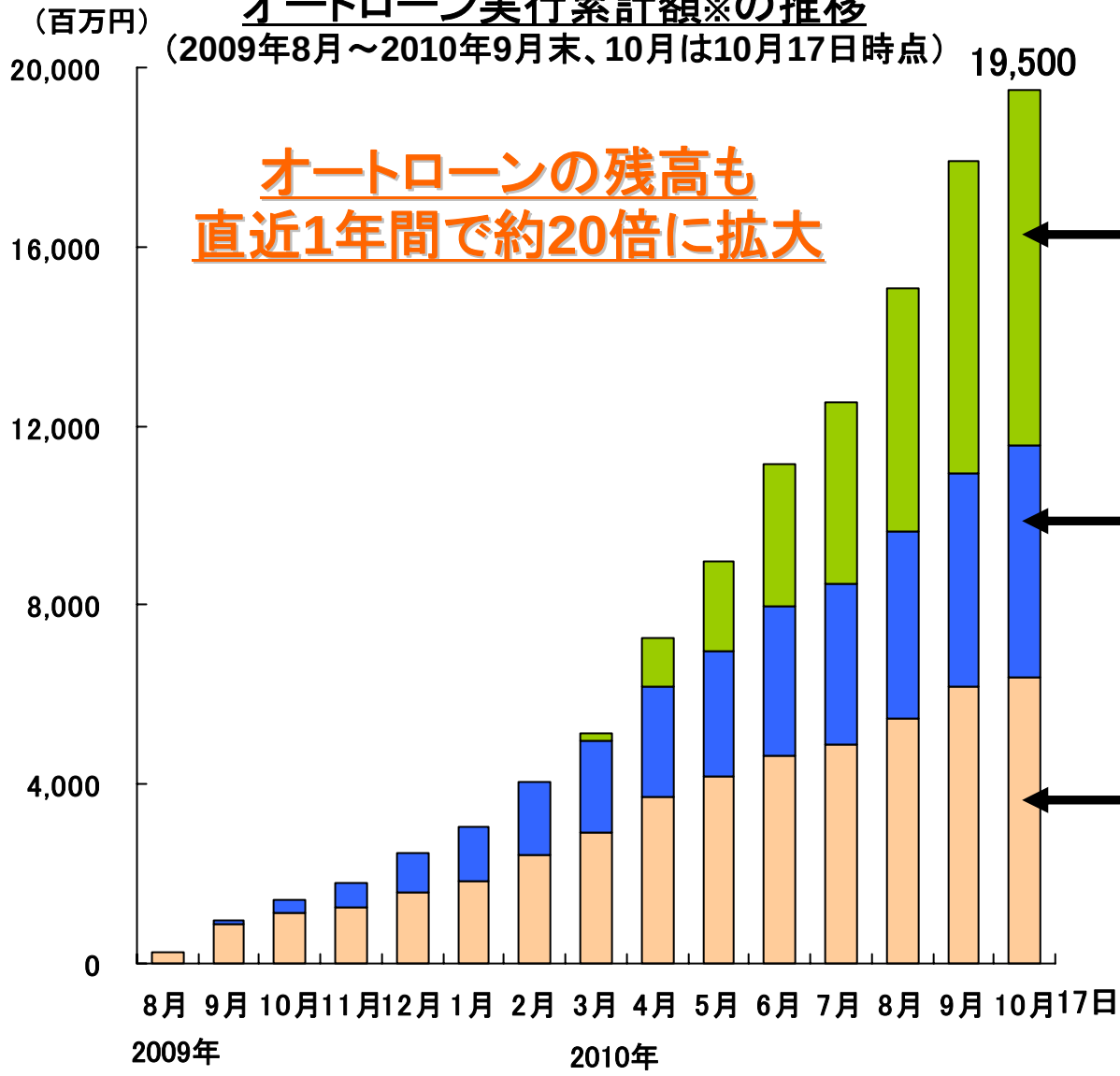
(百万円) (2002年6月末～9月末、10月は10月24日時点)



住宅ローンの残高も直近1年間で約2倍に拡大

オートローンも順調に拡大

オートローン実行累計額※の推移
(2009年8月～2010年9月末、10月は10月17日時点)



**オートローンの残高も
直近1年間で約20倍に拡大**

経由: ※括弧内は割合

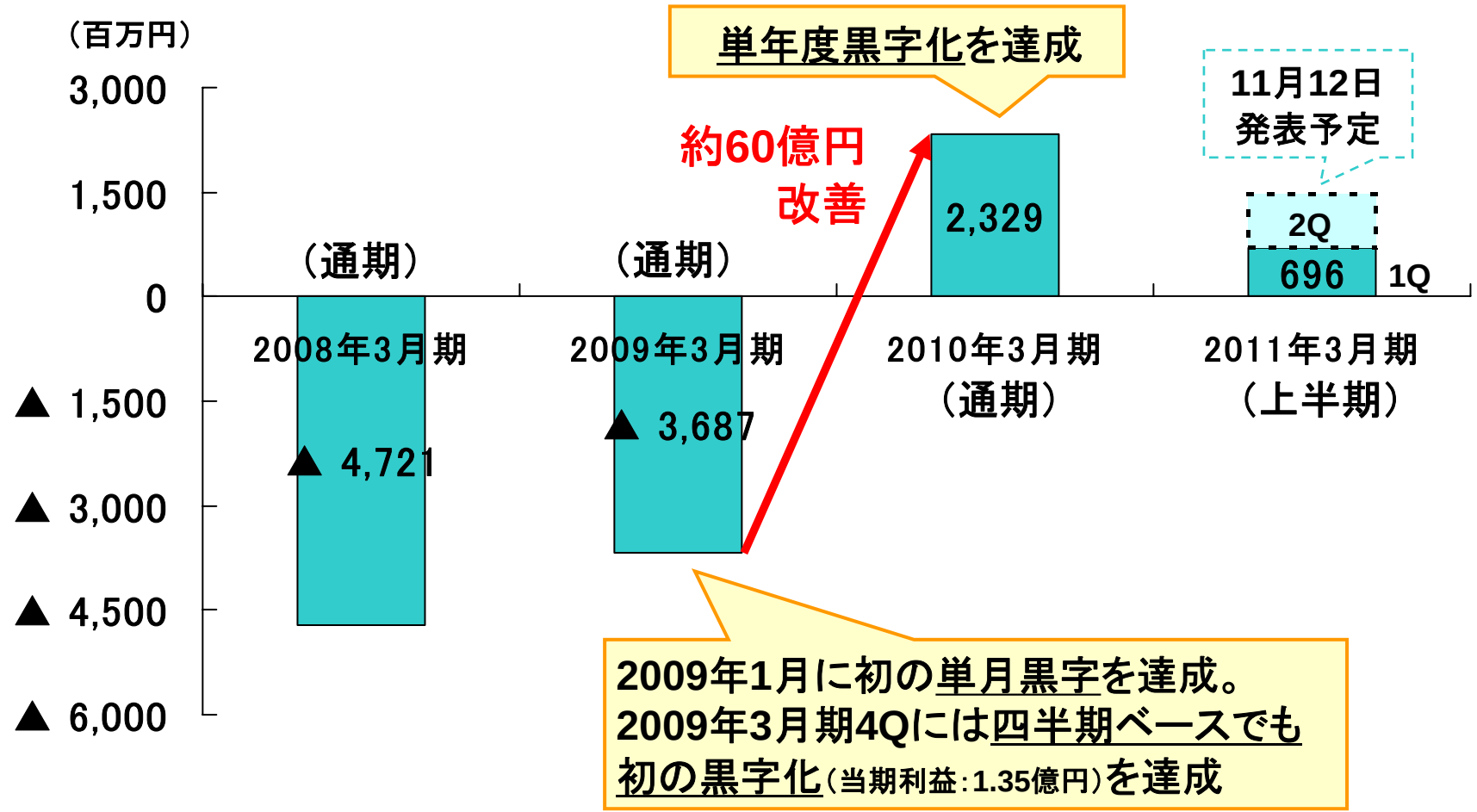
SBI Credit
10/1 (株)ジーワンクレジットサービス
から商号変更
(40.7%)

SBI AutoSupport
(26.5%)

その他(信販会社経由等)
(32.8%)

住信SBIネット銀行の2011年3月期第2四半期(7~9月) は第1四半期(4~6月)よりも好調に推移した模様

経常利益(単体)の推移:



**② 新設および新規買収会社のうち、
早期黒字化が見込まれる企業**

**〔 KTIC、SBI Global Investment、SBIクレジット、
中国証券報社と設立する合併会社 〕**

グループ会社化した韓国投資会社

KTIC、SBI Global Investment2社の業績は今期に入り黒字化

Korea Technology Investment Corporation (KTIC)

(持分法適用関連会社、韓国KOSDAQ上場)

単位: 億韓国ウォン

	2007年12月期 (通期)	2008年12月期 (通期)	2009年12月期 (通期)	2010年12月期 第2四半期(1-6月)
営業収益	543	222	341	142(約10.4億円)
営業利益	208	-185	-829	24(約1.7億円)

※KTICは12月決算

韓国政府資金を主とした1000億KRW規模の「日韓部品素材ファンド」の運用会社に内定

SBI Global Investment Co., Ltd. (旧KTIC GLOBAL INVESTMENT ADVISORY CO., LTD)

(連結子会社、韓国KOSDAQ上場)

単位: 億韓国ウォン

	2008年3月期 (通期)	2009年3月期 (通期)	2010年3月期 (通期)	2011年3月期 第1四半期(4-6月)
営業収益	31	38	49	16(約1.2億円)
営業利益	-13	-55	-200	4(約0.3億円)

※SBI Global Investmentは3月決算

韓国金融市場で注目を集める金融商品であるSPACに注力しており、同分野で200億韓国ウォン規模のファンド2本を設立(うち1本は8月に上場済)。さらに1本のファンド設立を進めている。

子会社化したSBIクレジット(旧ジー・ワンクレジットサービス)は
買収時の会計基準変更により一時的に収益悪化となるものの、
来期は営業黒字の計上を見込む



SBIクレジット

2009/10	SBIHと(株)ガリバーインターナショナルによる自動車 関連金融分野における業務提携に基本合意
2010/7/1	ガリバーからの株式譲受により(株)ジー・ワンクレジット サービスはSBIHの100%子会社へ
2010/10/1	(株)SBIクレジットに商号変更

取扱金融商品の拡充を進める

10/13～	ガリバーインターナショナルでのオートクレジット
10/14～	太陽光発電・オール電化のクレジット

【今後の事業展開】

- ・SBIクレジットの強みである加盟店(現在約2,500社)・拠点網(8拠点)を拡充し、
提携自動車ローンの更なる拡大を目指す
- ・太陽光発電やオール電化等のクレジットに加え、取扱金融商品の種類を順次拡充
- ・クレジットの利用者に対し、中古車の保証やSBIグループの提供する各種金融商品を提供

営業利益見込額 今期: ▲7億円 ⇨ 来期: 3億円 (参考) 前期: 1億円

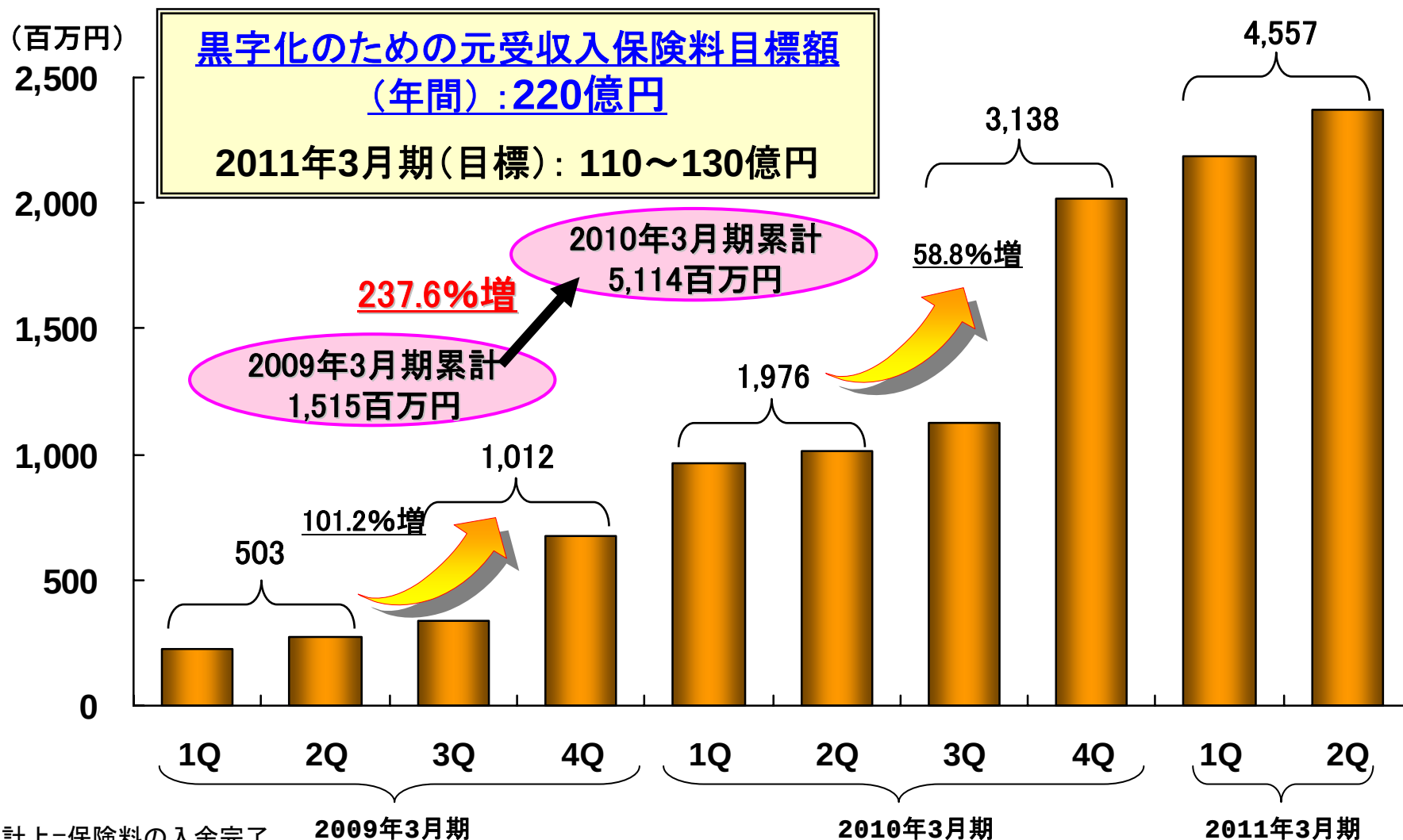
※会計基準変更前

③ 3年以内の黒字化を目指す赤字企業 (SBI損保^(注)、SBIオートサポート)

SBI損保の元受収入保険料は順調に増加

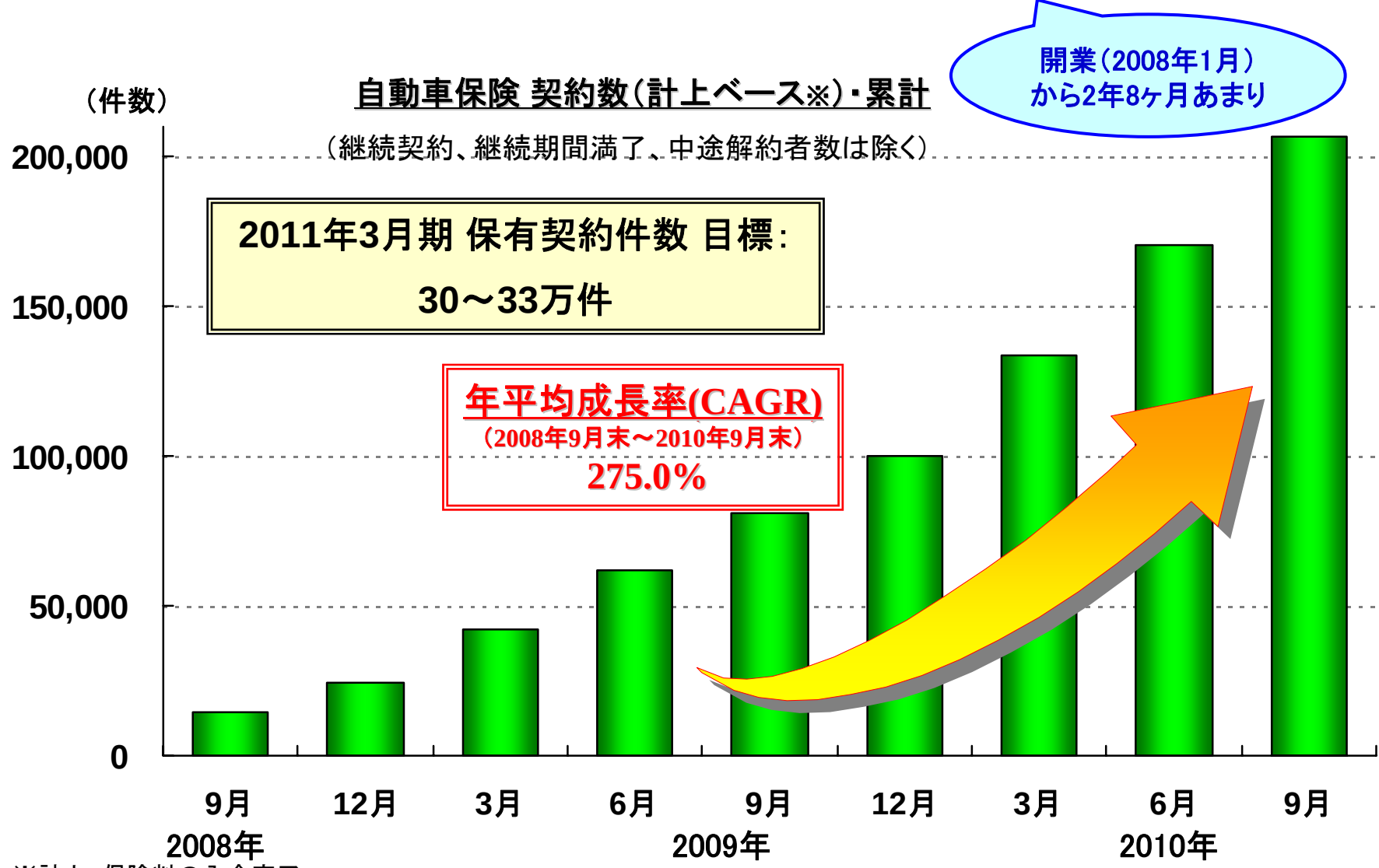
2011年3月期上半期(4月～9月)は前年同期比では130.6%増、
前下半期比でも45.2%増の約46億円となり、堅調に推移

元受収入保険料(計上ベース※)の推移



SBI損保の保有契約件数は20万件超と順調に拡大

2010年9月末現在、自動車保険の保有契約件数は20万件を突破！



※計上=保険料の入金完了

SBI損保とインズウェブ



SBIグループの金融商品だけでなくグループ外の商品も含めて、
「中立的な立場」からお客様に最も適した商品を紹介

「保険マーケットプレイス」 インズウェブ



多彩な保険商品の一括資料請求・
一括見積もりサービスを提供

自動車保険

参加損害保険会社等:20社

生命保険

参加生命保険会社等:23社

個人年金、学資保険、海外旅行保険、火災保険、バイク保険、
ドライバー保険、ゴルフ保険、レジャー保険、ペット保険、他

SBI損保

その他生命保険・
損害保険会社、
その他金融機関等

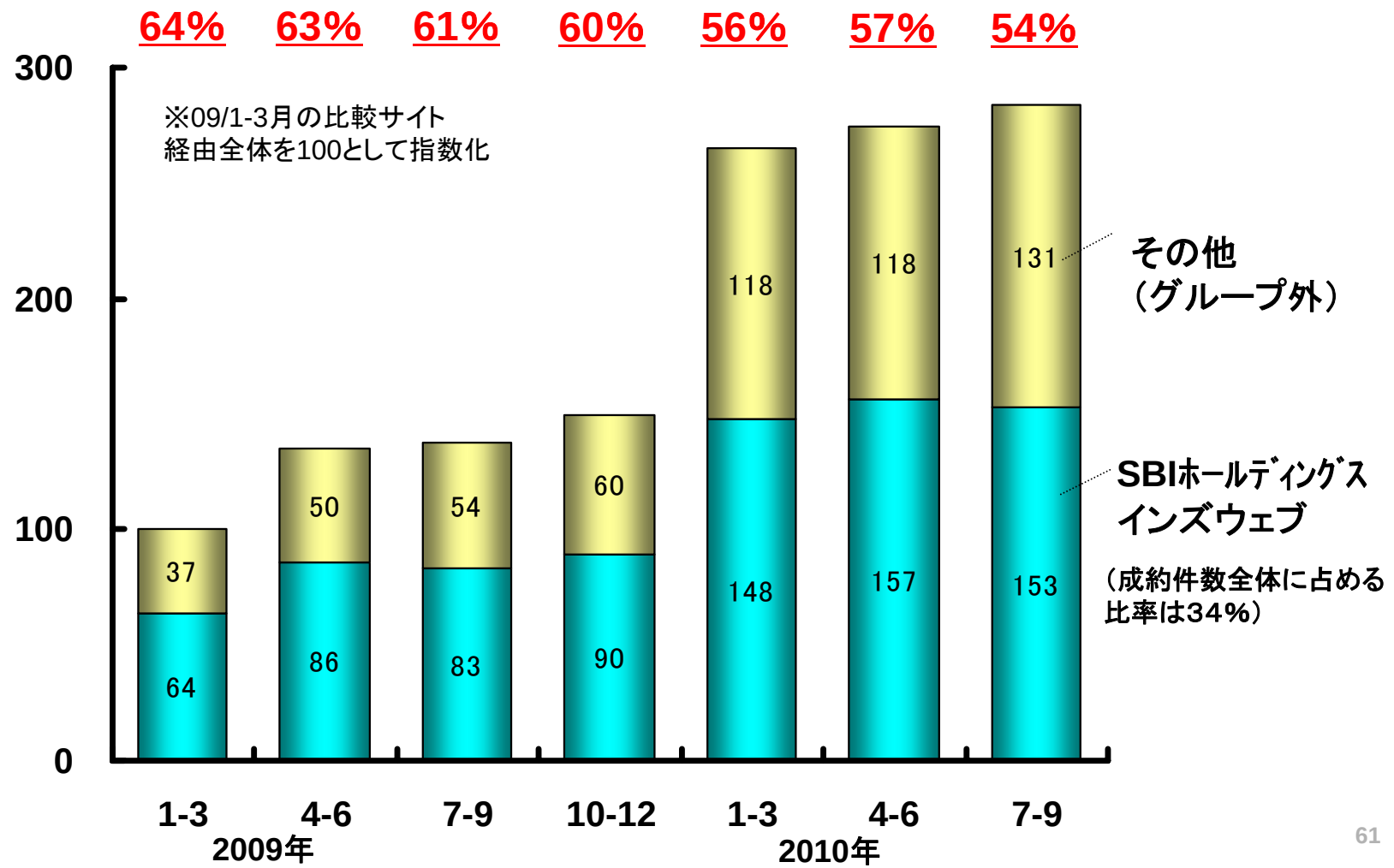
・自動車保険の見積もり利用者数は、**累計455万人を突破！**



SBI損保とインズウェブとのシナジー

比較見積りサイト経由でのSBI損保の成約件数 四半期比較(指数)

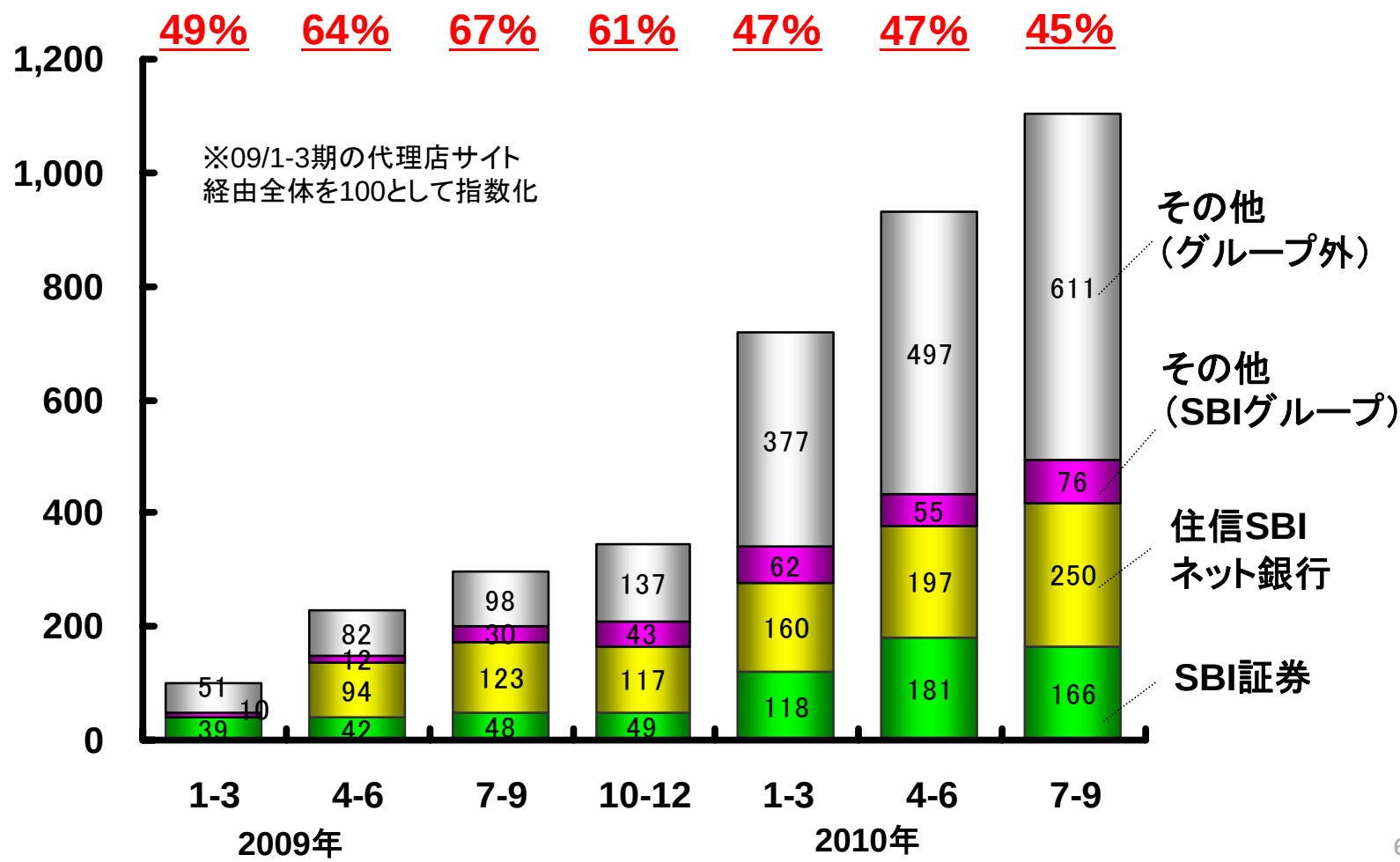
比較見積りサイト経由の成約件数に占めるインズウェブのシェア



SBI損保とグループ各社とのシナジー

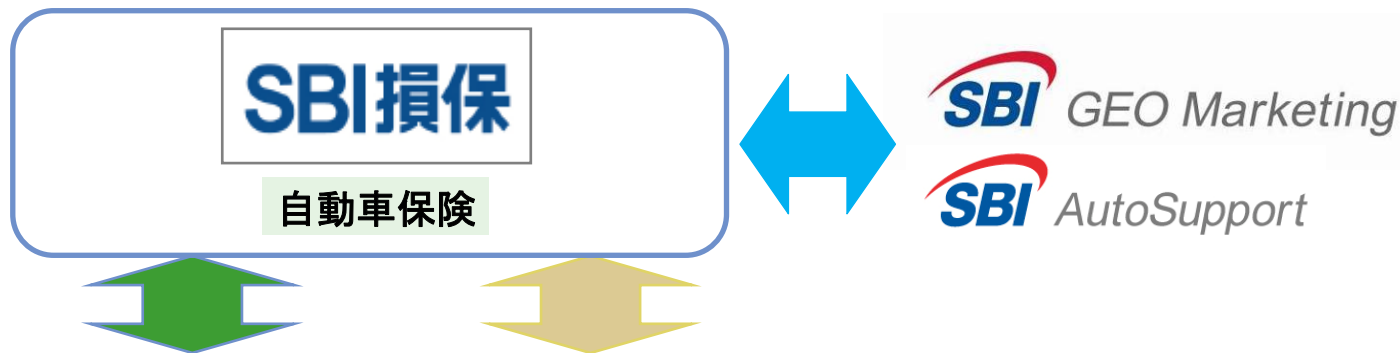
代理店サイト経由でのSBI損保の成約件数 四半期比較(指数)

代理店サイト経由の成約件数に占めるSBIグループのシェア



業績飛躍を目指したグループチャネルの活用と 異業種との提携によるチャネル拡大

SBI損保の自動車保険という特性を活かし、ネットのみではリーチ
できなかった顧客層へ効率的にアプローチ



SBIグループの既存チャネルの例

SBI証券

212万口座

(2010年9月末)

**保険の窓口
インズウェブ**

累計見積件数:
455万件超

(2010年9月末)

住信SBIネット銀行

SBI Sumishin Net Bank

89万口座

(2010年9月末)

SBI マネープラザ
住宅ローン | 生命保険 | 資産運用

84店舗

(2010年9月末)

提携により拡大された異業種チャネル

(提携発表)09年8月

DVDレンタル大手



・稼働会員: **約1,254万**
・全国1,025店舗
(FC含む)

(2010年9月末)

(提携発表)09年10月

中古車売買大手



・年間約20万台の買取
・年間約4万台の小売
・全国423店舗
(FC含む)

(2010年9月末)

(提携発表)08年3月

中古車オークション
会場運営大手



・会員数: 約15,200社
・年間: 約57万台出品

(2010年3月期実績)

SBI損保モバイルサイトへの誘導を行う専用端末を10月よりマネープラザ内に設置開始!

(出所) 各社開示資料

SBIオートサポートの業績は順調に改善

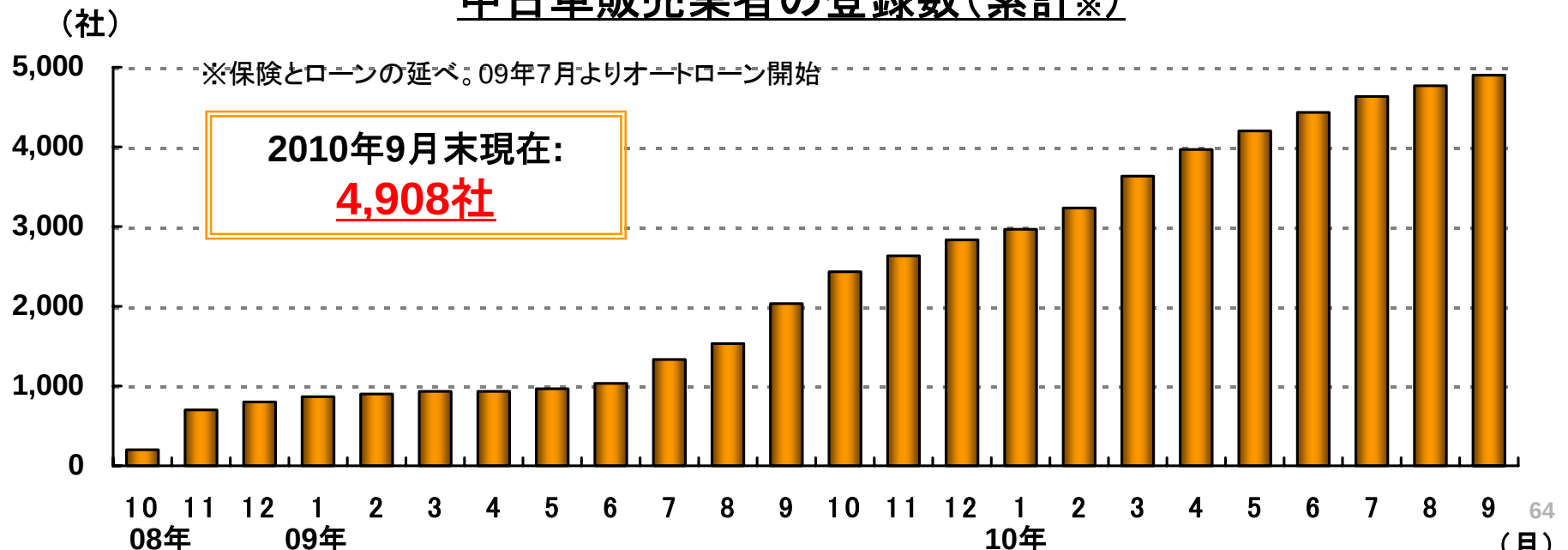
中古車オークション会場運営のJAAと共同設立したSBIオートサポートは中古車販売業者登録数・ローン成約件数等の主要指標が向上し、業績が改善



(単位: 百万円、%)

	2010年3月期 上半期 (09年4月～09年9月)	2011年3月期 上半期 (10年4月～10年9月)	前年同期比 増減額	2010年3月期 下半期 (09年10月～10年3月)	2010年3月期 通期
営業利益	▲32	▲9	+23百万円	▲18	▲51

中古車販売業者の登録数(累計※)



(2) 継続する全社的な販管費削減に向けた取り組み

販売費及び一般管理費の削減

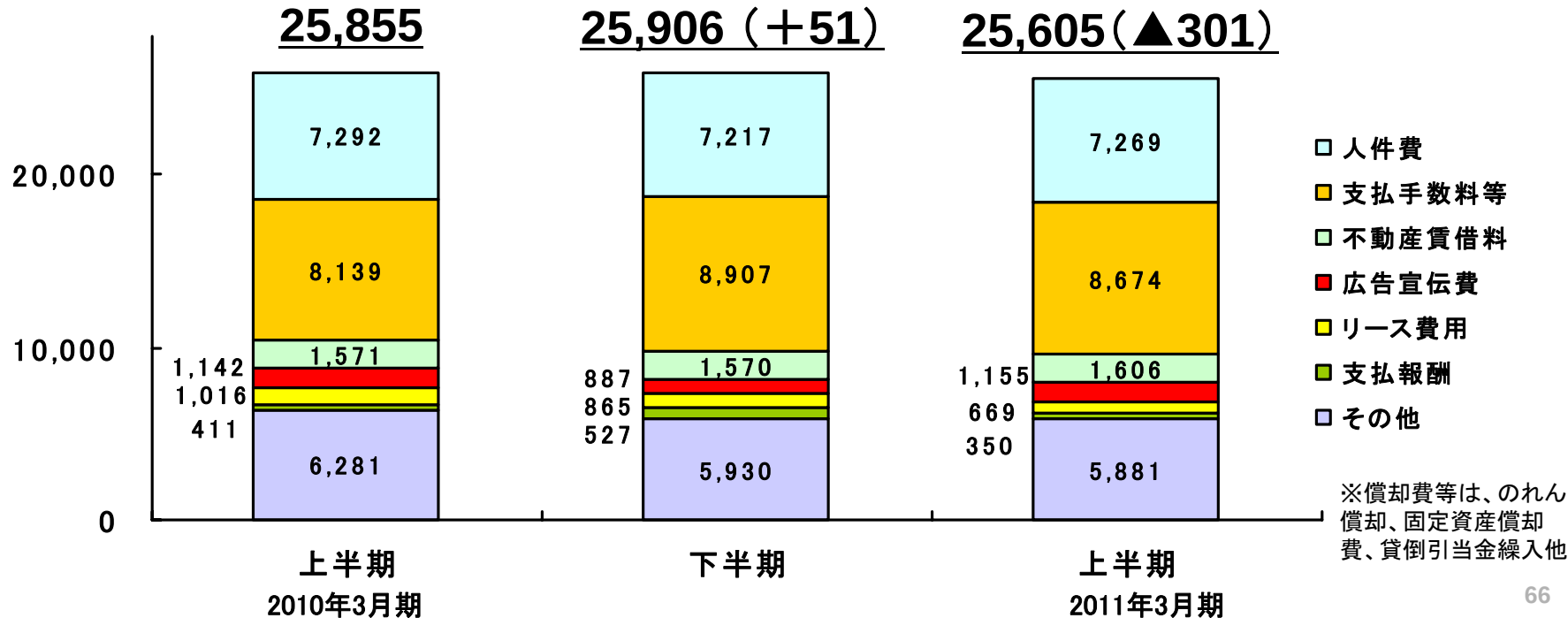
- 2008年10月より各社で経費削減担当者を設置し経費削減を強化
- 2011年3月期上半期の販売費及び一般管理費は、前年同期比で430百万円の減少に

	2010年3月期		通期
	上半期 (2009年4～9月)	下半期 ('09年10月～10年3月)	
販管費合計	31,126	30,844	61,971
管理可能費	25,855	25,906	51,762
償却費等※	5,270	4,938	10,209

2011年3月期	
上半期 (2010年4～9月)	前年同期比 増減額
30,696	▲430
25,605	▲250
5,098	▲179

■ 管理可能費の内訳(単位:百万円、カッコ内は前半期比増減額)

(単位:百万円)



(3) 収益力の高い海外事業体制の構築とさらなる拡大

- ① 急速に成長している海外金融事業**
- ② グローバルネットワークバリューの創出に向けて**
- ③ グローバル金融関連コンテンツ事業の拡充**

収益力向上と管理体制強化を目指した 海外事業体制の構築

2010年9月1日よりスタートした新組織体制

- ・ 海外事業本部を新設し、その傘下に海外事業推進部と海外事業管理部を設置
- ・ 海外事業本部長は、代表取締役執行役員CEO北尾 吉孝が兼務

2010年9月、第一回海外拠点長会議をシンガポールで開催し、以後毎週実施

重点施策

<ファンド事業>

- ・ 優秀な人材の登用
- ・ パフォーマンス管理体制の確立

<金融事業の海外移出>

- ・ 海外金融機関の資本を一部取得した上で、証券・銀行・損保等、日本で蓄積したシステム、ノウハウの移出を進め、日本の各金融事業との連携を一層強化

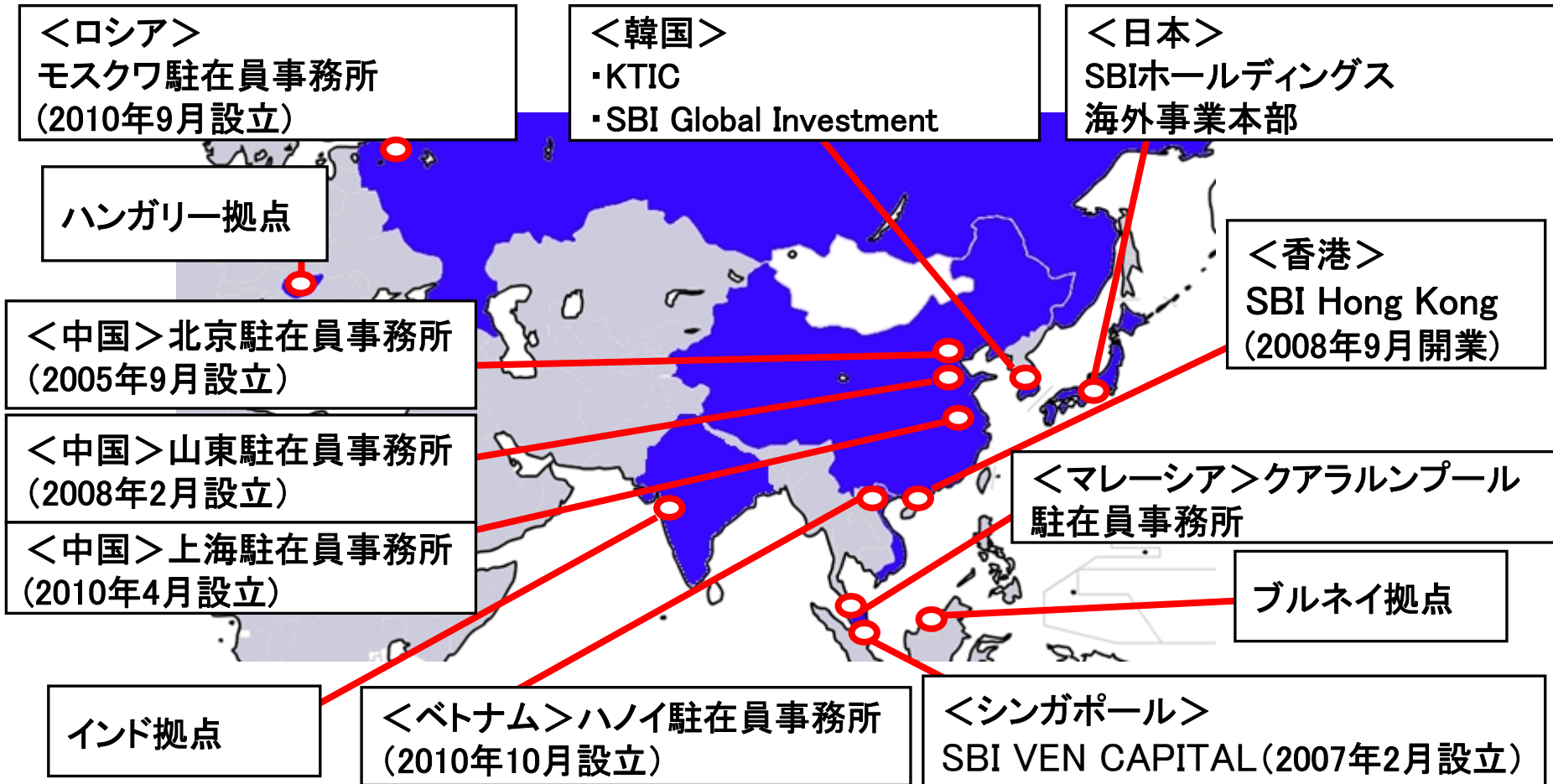
<グループ管理>

- ・ 駐在員事務所の早期現地法人化
- ・ 収益貢献度を明確にするための海外管理会計制度の徹底
- ・ 現地におけるコンプライアンス管理・リスク管理体制の確立



拡充を進める海外拠点網

駐在員事務所も順次現地法人化し、健全で収益力の高い海外組織体制を目指す



海外現地法人および海外駐在員事務所の年間運営コスト見込額: 7億円

2011年3月期上半期における、海外事業の営業利益: **約20億円**

(ただし、上記金額にはKTIC、SBI Global Investment、ティエン・ホン銀行、プノンペン商業銀行の業績を含む)

① 急速に成長している海外金融事業

出資先の海外金融機関は急速に成長

出資先海外銀行3行の今上半期の税引前利益は前年同期比で大きく向上

ティエン・ホン銀行(出資比率20.0%:持分法適用関連会社)

(単位:百万円)*

	2009年12月期 上半期(1-6月)	2009年12月期 下半期(7-12月)	2010年12月期 上半期(1-6月)	前年同期比 増減率
税引前利益	385	438	544	41.4%

プノンペン商業銀行(出資比率40.0%:持分法適用関連会社)

	2009年12月期 上半期(1-6月)	2009年12月期 下半期(7-12月)	2010年12月期 上半期(1-6月)	前年同期比 増減率
税引前利益	8	26	28	246.6%

セイロン商業銀行(コロンボ証券取引所上場、出資比率9.99%)

	2009年12月期 上半期(1-6月)	2009年12月期 下半期(7-12月)	2010年12月期 上半期(1-6月)	前年同期比 増減率
税引前利益	2,872	2,887	3,156	9.9%

➡ 2009年12月期の配当性向は41%

*各期末のレートで日本円に換算

② グローバルネットワークバリューの創出に向けて

- i) 世界の有力パートナーとの提携によるプライベート・エクイティ投資を中心としたグローバルネットワークの更なる拡大
- ii) グローバルネットワークバリューの追求

- i) 世界の有力パートナーとの提携によるプライベート・エクイティ投資を中心としたグローバルネットワークの更なる拡大

海外有力パートナーとの新設ファンド:①ブラジル

ジャーディム・ボタニコ



ブラジルの有望な未公開企業を投資対象とする
新たな投資ファンドを共同設立することで基本合意

【パートナー概要】

商号: Jardim Botânico Investimentos

設立: 2003年5月

運用総額: 157百万米ドル(2010年6月時点)

現在プライベートエクイティを含む3つのファンドを運用しており、同社の旗艦ファンドであるJB Focusファンドは、年率利回り26.5%と高い運用実績を誇る

【共同設立ファンド概要】

投資対象: ブラジル国内の未公開企業

出資約束金額: 125百万米ドル

SBIグループ出資比率: 50%

SBIグループとジャーディム・ボタニコの双方出資により、合併で新たにファンドマネジメント会社を設立する予定

海外有力パートナーとの新設ファンド:②アブダビ



Invest AD(アブダビ政府系)



北・中央アフリカ6ヶ国(ナイジェリア、ガーナ、ケニア、エジプト、チュニジア、モロッコ)における有望な企業に投資するファンドを共同設立することで基本合意

【パートナー概要】

名称:Invest AD

設立:1977年

- ・ アラブ首長国連邦アブダビ政府系のアブダビ投資評議会(ADIC)の子会社として、中東およびアフリカの成長市場にフォーカスした投資を行う
- ・ 現在はアフリカの上場企業を対象とした投資ファンドのほか、中東および北アフリカの上場企業ならびに未上場企業を対象とした投資ファンド等を運用

【共同設立ファンド概要】

投資対象:北・中央アフリカの石油などの資源、鉱業、製造業や銀行業等

出資約束金額:100百万米ドル

SBIグループ出資比率:50%

海外有力パートナーとの新設ファンド: ③中国 復旦大学(上海)



上海・長江デルタ地域等、中国南方地方での当社事業拡大との相乗効果も見込む

【復旦大学概要】

- 1905年創立
- 清華大学及び北京大学と並ぶ中国の三大名門校の一つ
- 傘下のベンチャー企業としては復旦復華(上海A株)、上海復旦マイクロエレクトロニクス(香港GEM)、復旦張江生物医薬(香港GEM)などが上場
- 復旦大学のインキュベーションセンターは、2005年に中国の科学技術部より「国家級の科学技術創業センター」に認定

【共同設立ファンド概要】

- 最低出資約束金額: 50百万米ドル(SBI側)、30百万米ドル(復旦大学側)
- 復旦大学が強みとするバイオ、グリーンテック、IT・メディア、新エネルギー等の分野を中心とした同大学関連企業や、同大学発のベンチャー企業などを主な投資対象とする
- 米ドル建てファンド及び人民元建てファンドの2本を設立し、当社が中国に設立するファンド管理会社にて一括運用を行う

中国三大名門校のすべてと投資ファンド運営で提携

2008年1月 合併ファンド設立

【清華ホールディングス】



清華大学が100%保有するアセットマネジメントカンパニーで同大学における技術移転やアセットマネジメント、国際的な業務提携などを担う

2008年2月 合併ファンド設立

【北京青鳥】



北京大学が擁する企業グループ北京大学青鳥集団のグループ会社傘下で、中国屈指のハイテク企業

2010年10月 基本合意

【復旦大学】



傘下のベンチャー企業としては復旦復華(上海A株)、上海復旦マイクロエレクトロニクス(香港GEM)、復旦張江生物医薬(香港GEM)などが上場

中国における大学とのファンド共同運営の意義

- 中国は産・官・学各分野が非常に親密なリレーションシップを構築しながら最先端の研究シーズを大学から次々に引き出して活用している
 - ➡ 主要大学が中心となって広大な産業グループを形成しており、米国シリコン・バレーと同じ状況が作りだされつつある
- 大学のリソース・教授陣を活用した技術評価及び専門的見地からの様々なアドバイスが取得可能
- 資金募集の面でも、既に成功を収めている卒業生が経営する公開企業とのリレーションが活用可能

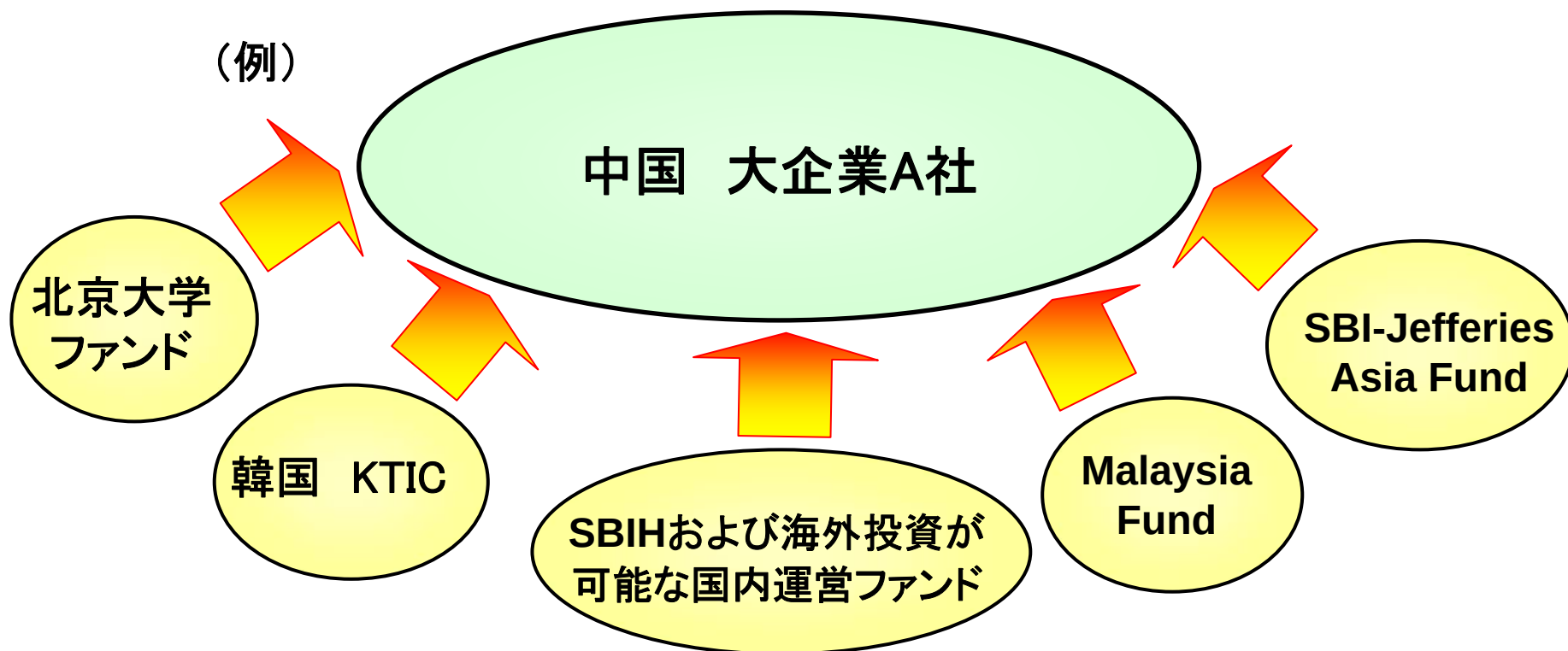
ii) グローバルネットワークバリューの追求

グローバルネットワークバリューの追求例①

グローバルネットワークバリュー①:

ジョイントインベストメントによる投資規模の拡大

(例)



- 複数のファンドから出資を行うことで総額として大規模な投資が可能に
- 1社に対する各ファンドの出資制限の範囲内で、グループ全体としてその制限を超えた比率の出資が可能に

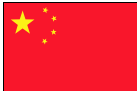
大企業に対しても出資比率を高めて経営への関与が可能となる

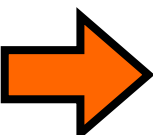
グローバルネットワークバリューの追求例②

グローバルネットワークバリュー②:

世界有力機関からの投資によるIPOバリューの向上

SBIグループのファンドのパートナーとなる有力機関の例

 日本No.1ベンチャーキャピタル SBIインベストメント	 北京清華大学グループ会社 清華ホールディングス
 韓国No.1ベンチャーキャピタル KTIC	 北京大学傘下の戦略投資部門 北京大学青島環宇
 シンガポール政府系投資会社 TEMASEK グループ	 招商証券、源裕投資、中信銀行
 マレーシア国営資産運用機関 PNB Equity Resource Corporation	 上海 復旦大学
 ブルネイ＝ダルサラーム国財務省	 ベトナム最大のハイテク企業 FPT社
 米国大手証券会社 Jefferies Group	 ハンガリー開発銀行100%子会社 MFB Investment Ltd.
 ロシアの総合金融グループ IFC METROPOL	 アブダビ政府系のADICの子会社 Invest AD(アブダビ投資会社) etc.

 世界的に有力とされる機関がパートナーとなる複数のファンドが出資者として
名を連ねることでIPO時のバリューが向上し、より高いリターンが期待できる

グローバルネットワークバリューの追求例③

グローバルネットワークバリュー③：
各国金融サービス事業の相互シナジーの創出

日系金融機関で初となる カンボジアにおける証券事業フルライセンス認可取得



SBIプノンペン証券

(正式名称: SBI Phnom Penh Securities Co., Ltd.)

- 10月20日にカンボジア証券取引委員会よりフルライセンスの認可を取得
 - 取引所開設後は、証券引受・株式買受受託等の証券業務を総合的に行う
- 国有企業が上場する際の株式引受およびSBI証券と連携したカンボジア株式の日本における販売等、グローバルな業務展開を目指す

カンボジア

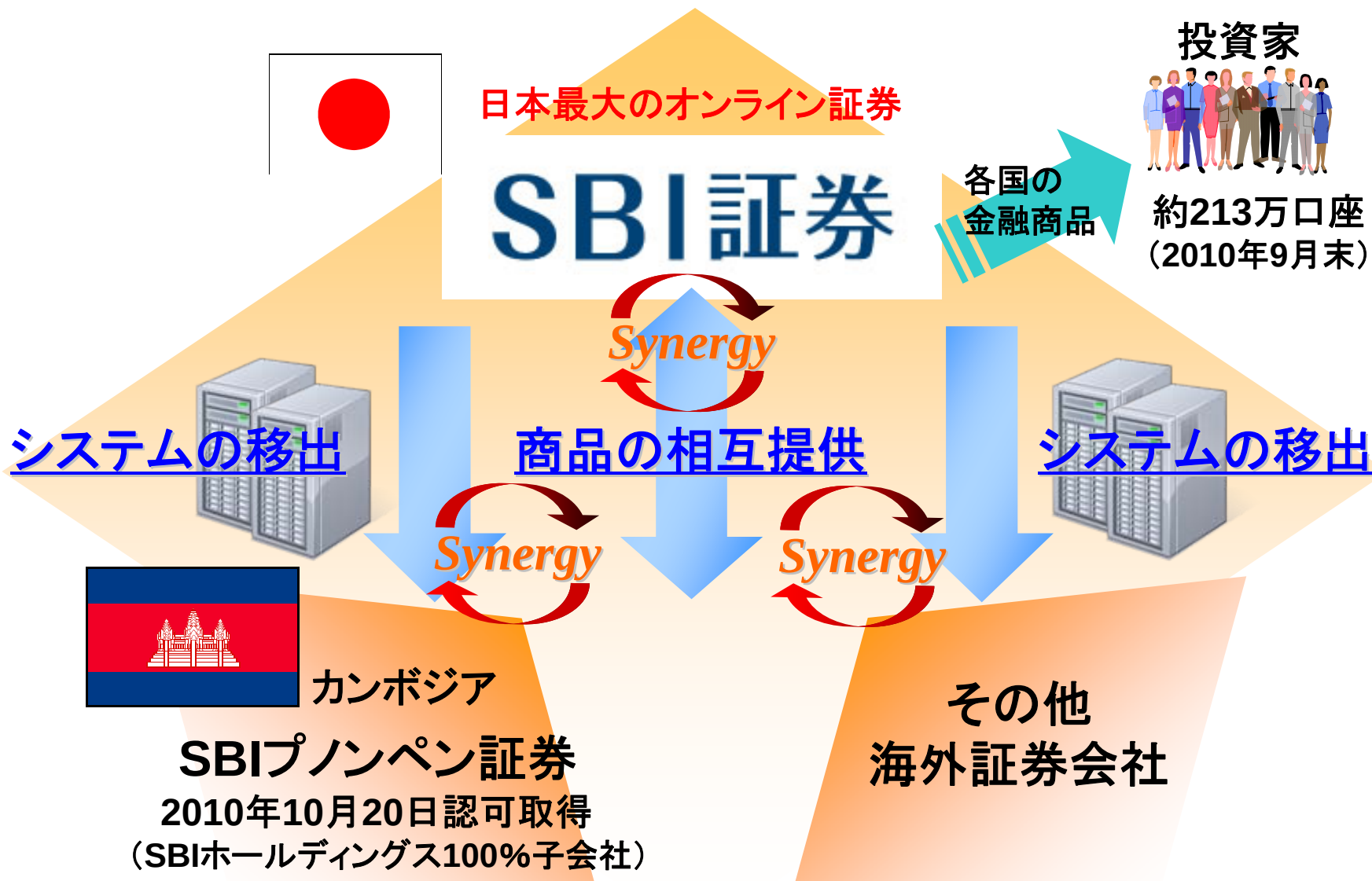
- 韓国や中国などの企業が数多く進出し、縫製などの製造業が成長段階に入っている
- 今後の同国の経済発展により金融市場も大きく成長すると期待される
- 国有企業を初めとする同国優良企業の上場が予定される

プノンペン商業銀行

(当社40%出資／2008年9月開業)



(例)証券事業のグローバルシナジー



その他:新興国の国営企業の民営化における証券等を引き受け、日本のマーケットで販売する
(グローバルなアンダーライティング業務の展開)、等々

グループ会社化された海外銀行の 相互シナジーを追求①

ベトナム



ティエン・ホン銀行 (2008年5月開業)

2009年8月に発行済株式の20%を取得、今期より持分法適用会社化

設立初年度に黒字化達成。2期目も引き続き業績拡大
本店に加え7支店、17出張所を展開。

＜2010年12月期 第3四半期累計(1-9月)業績※＞

経常収益	69.2億円	口座数	27,812口座
当期純利益	5.5億円	預金	287.2億円
総資産	627.0億円	ローン	218.7億円



カンボジア



プノンペン商業銀行 (2008年9月開業)

当社出資比率40%で新規設立、今期より持分法適用会社化

順調に利益拡大を続け、創業2期目に黒字化達成。
2010年1月に第一号支店を開設、同3月に累損一掃。

＜2010年12月期 第3四半期累計(1-9月)業績※＞

経常収益	2.1億円	口座数	4,169口座
当期純利益	0.4億円	預金	32.1億円
総資産	45.2億円	ローン	17.2億円



※ 業績は監査前の速報値
※ 換算レートは(2010/9/30のレート)を使用

グループ会社化された海外銀行の 相互シナジーを追求②

～オビ銀行への出資によるオンラインバンキング事業の展開～

50%出資について基本合意済、株式取得後当社グループ化の予定

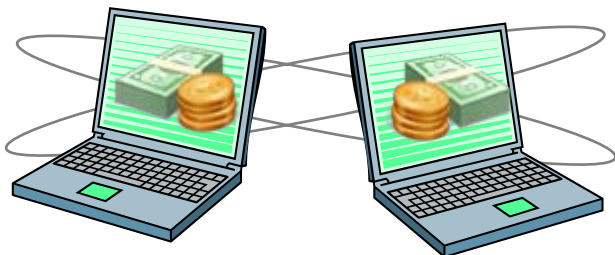


ロシア



オビ銀行
(1994年設立)

SBIグループが日本で培ったオンラインバンキング事業のノウハウ等を活用することで、システムの安全性・安定性に優れ、より利便性の高いオンラインバンキング・サービスの提供を目指す



＜2009年12月期(通期)の業績※＞

経常収益 31.9億円
当期純利益 4.3億円
資本金 29.9億円
総資産 311.2億円

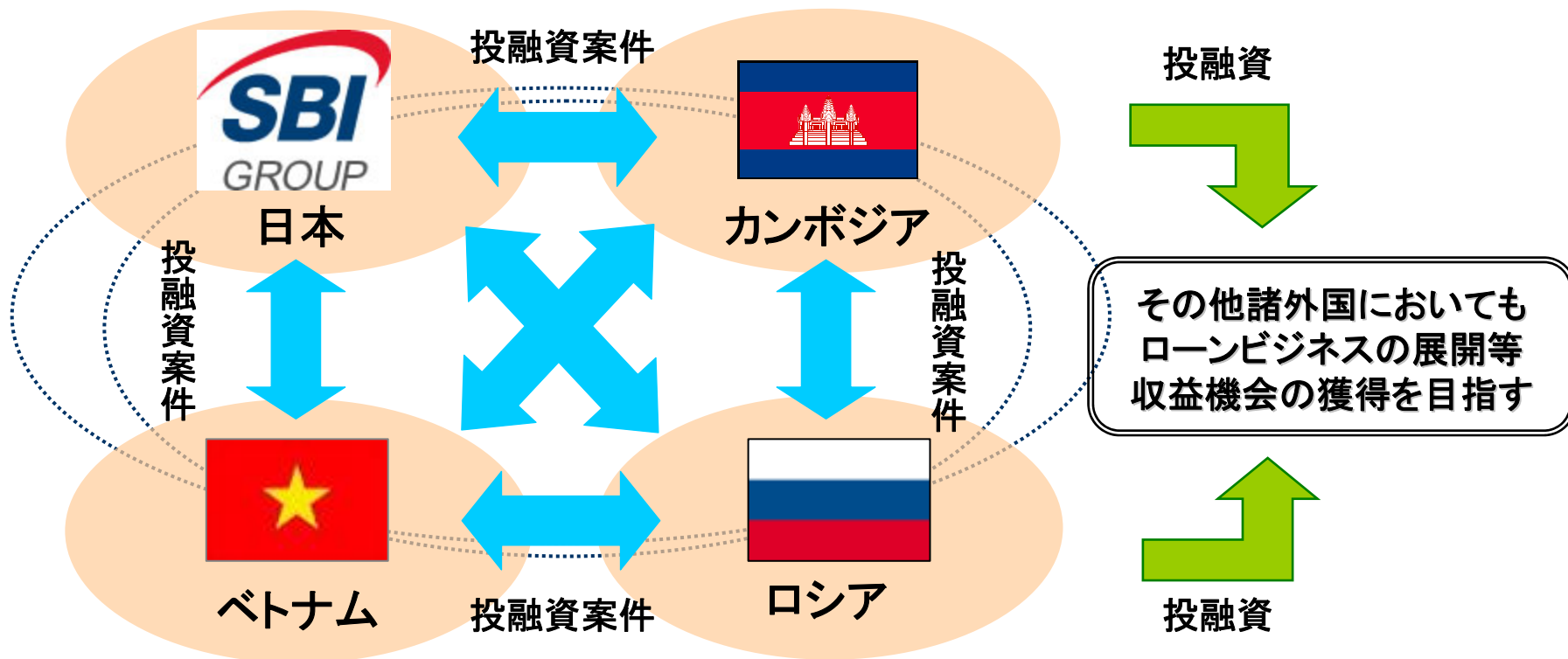
口座数 4,861口座
預金残高 256.5億円
ローン残高 78.2億円

※ 換算レートは(2009/12/31のレート)を使用

(例) 銀行事業のグローバルシナジー

SBIグループと各海外銀行間で相互に投融資機会の提供を図り、各国における銀行事業の成長加速を目指す。

イメージ:



日本企業の各国進出に際して、当該企業の売掛金を担保にしたり、親会社の保証をとるなどして、金融面から支援する・・・等々

中国の損害保険会社「天安保険社」

新車販売台数が世界一となった中国では、今後の更なる自動車市場の拡大に伴い自動車保険市場の拡大が見込まれる



2010年7月に株式取得
(出資比率:7.65%)

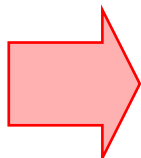
役員を1名派遣予定

SBIグループが有するオンライン
保険事業のノウハウの提供
→ オンライン化を進める



天安保険社 (Tianan Insurance Co., Ltd.)

- ・収入保険料(2009年):70億元(約902億円) ※1元=12.89円にて換算
- ・支店数:中国国内32支店
- ・設立:1994年



2～3年以内のIPOを目指す

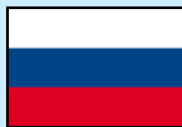
海外金融サービス事業の地域的拡大

新たにインド、インドネシアにおける金融事業の展開、
ベトナムにおける証券事業への参入を予定

【ロシア】

オビ銀行

(設立:1994年)



【中国】

天安保険社(損害保険)

(設立:1994年)



【インド】

証券業、銀行業、保険、
為替のOTC取引の展開
を予定



【ベトナム】

・ティエン・ホン銀行
(2008年5月開業)

・新たに証券事業の展開を予定



【インドネシア】

証券業、銀行業の展開
を予定



【カンボジア】

・プノンペン商業銀行
(2008年9月開業)

・SBIプノンペン証券
(2010年10月認可取得)



③ グローバル金融関連コンテンツの拡充

～情報を制する者が金融ビジネスを制す～

サーチナの情報力を生かした 投資情報コンテンツの拡充

中国株式投資情報



月間PV:8,847万
月間UU:489万

(※2010年9月現在)

Synergy

SBI証券 約450銘柄の中国
株式・ETFを取り扱う

サーチナの投資情報ツール
「VIP-Level III」導入

主な機能:

中国株式の銘柄検索／業種別騰落ランキン
グ／個別銘柄の詳細画面や銘柄解析／スク
リーニング機能や多機能チャート…等々!!

Synergy

新たな金融ポータルサイト「**SBIF**」開設

SBIF Finance TM

(SBIホールディングス運営)

- 日中の経済マクロ指標、
株式等の比較が可能
- Flashを用いたチャート

等々

米国株情報を加えるなど、順次、海外投資
向け情報発信サイトとしての拡充を図る

独自のリサーチ力により、 中国情報における優位性を確保するサーチナ



月間PV: 8,847万
月間UU: 489万
(※2010年9月現在)



上海現地法人・上海サーチナ
(サーチナ総合研究所)
約45万人の自社モニターデータベース

・オンライン中国白書として 「中国消費者の生活実態」を公開

2004年以来毎年実施してきた意識調査・
定点観測に関する白書(書籍)をオンライン化

・中国都市別統計を整備・公開

インターネット上で、2003年以降の各都市
主要経済指標を時系列で表示。

・「時事世論調査」(日本語と中国語)

中国現地消費者モニターが中国の最新
ニュースに関する調査を自身で投稿し、他
のモニター会員が回答。結果は、グラフで
都市別、性別、年齢別で閲覧可能。

・ジェトロのアンテナショップ事業の受託

ジェトロ上海センターによる日本産食品の輸
出可能性を探る事業の一環として、湖南省長
沙市に日本食品のアンテナショップを設置。



約1カ月間、試験販売・試食マーケティングを実施

中国国営新華通信社グループの中国証券報と提携し、 日中間の経済・金融情報サービス事業等へ参入

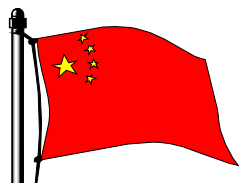


- 中国最大の発行部数を誇る経済紙『中国証券報』の日本語版ウェブサイト開設を予定。さらには、新会社における英語での情報発信についても今後検討
- 中国証券報子会社で広告代理業務を行う、北京新証広告公司(前期純利益:約2億円)を新会社傘下に移管し、ネットを含む総合広告代理業務を展開予定
- 中国証券報社がこれまで蓄積してきた1,200社以上の中国上場企業(蓄積期間18年以上)及び投資信託(蓄積期間10年以上)という膨大な企業情報が活用可能
- モーニングスター等のSBIグループの金融情報配信のノウハウを活用した事業展開を加速

中国証券報について

- 中国最大の発行部数(1日100万部)を誇る経済専門紙
- 中国国内で高い影響力を有する投資信託格付機関「金牛賞」の選考を行う(開催実績:ファンド金牛賞 7回、上場会社金牛賞 12回)
- 北京、上海、深セン等の14の省や直轄市にある支局と新華通信社の世界の支局を通じて情報を収集

グローバル規模での金融コンテンツ事業の強化

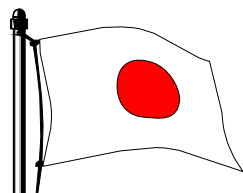


サーチナ
中国等の海外情報

2010年2月 子会社化

中国証券報
新華社ネットワークを活用した
情報提供

2010年10月 JV設立契約締結



MORNINGSTAR

1998年8月 ウェブページ開設

モーニングスター・株式新聞
日本株・投資信託情報

SBIFinanceTM

総合金融ポータルサイト



米国モーニングスター
米国、英国、スイス、中国、
インド、ブラジル株レポートを
モーニングスターに配信

WSJ日本版
独自視点の海外経済情報

2009年12月
サービス開始



THE WALL STREET JOURNAL.
ウォール・ストリート・ジャーナル 日本版 japan.WSJ.com

インド及びベトナム圏などの高い成長が見込まれる地域に
関する経済・金融情報に対するニーズをとらえるべく、
今後は金融コンテンツ事業を世界規模で拡充

3. 新たな事業分野として花開きつつある バイオ関連事業

- (1) SBIバイオテック
- (2) SBIアラプロモ
- (3) バイオ関連出資先

SBIバイオテックはグローバルなネットワークを 強みに創薬プロジェクト等が進捗

・免疫調節医薬(GNKG168)

中国の医薬開発ベンチャーHuapu社との提携により、米国にて臨床試験(フェーズⅠ)が進行中。北米医師グループより小児急性白血病への適応拡大の要請を受け、共同臨床試験を準備中。外資製薬企業との提携交渉開始。

・免疫細胞療法

米国ベイラー研究所との提携により、米国にて臨床試験(フェーズⅡ)治験中。現在、日本における臨床研究および臨床試験も準備中。

・がんや自己免疫疾患に対する抗体の研究開発

米国MedImmune社(Astrazenecaグループ)と提携したILT7抗体に続き、BST2抗体についても国内外の有力製薬企業と提携交渉中。

・新規抗がん剤開発

韓国クリスタルジェノミクス社との提携により発見したリード化合物(新薬候補の化合物)について、2010年4月に国際特許出願済。現在、国内バイオベンチャーとの提携により発見したリード化合物についても、特許出願準備中。

SBIアプロモの進捗状況

着実に成長を続けるSBIアプロモの業績



バイオ関連出資先の研究開発

クオーク・ファーマシューティカルズ社 (SBIグループ出資比率: 36.02%)

1) QPI-1002 (急性腎不全、臓器移植後の拒絶反応防止薬)

- ・2010年1月に、進行中であったフェーズⅠ・Ⅱの臨床試験に対して独立データ安全性モニタリング委員会より次のフェーズに進めるよう推奨を受ける
- ・2010年2月米国食品医薬品局(FDA)が、2010年6月欧州委員会が希少疾病用医薬品に指定

2) QPI-1007 (虚血性視神経症、緑内障)

- ・眼病の神経保護剤としてバイオスプリング社と共同で開発
- ・2010年3月にフェーズⅠの臨床試験を開始、10月には非動脈炎性前部虚血性視神経症(NAION)の患者に初の投薬を実施

3) PF-4523655 (WET型加齢黄斑変性症(AMD)、糖尿病性網膜症(DME))

- ・ファイザー社へ独占的なライセンスを許諾
- ・2009年10月に根幹となる知的財産に対し、日本の特許が付与される
- ・現在、フェーズⅡaの試験中

2010年7月15日、日東電工社と線維症治療向けの
siRNA医薬品の共同研究開発に合意し、ライセンス契約を締結

アキュセラ社 (SBIグループ出資比率: 27.48%)

1) ACU-4429 (ドライ型加齢黄斑変性症)

- ・大塚製薬と共同開発の戦略的パートナーシップを構築
- ・2010年1月、フェーズⅡの臨床試験を開始
- ・2010年3月、米国FDAよりファスト・トラック(優先審査対象)に指定される

2) OPA-6566 (緑内障)

- ・2010年9月、大塚製薬と共同開発・共同販売契約を締結
- ・現在前臨床試験の段階にあり、来年以降、臨床開発が開始される予定

【参考資料】

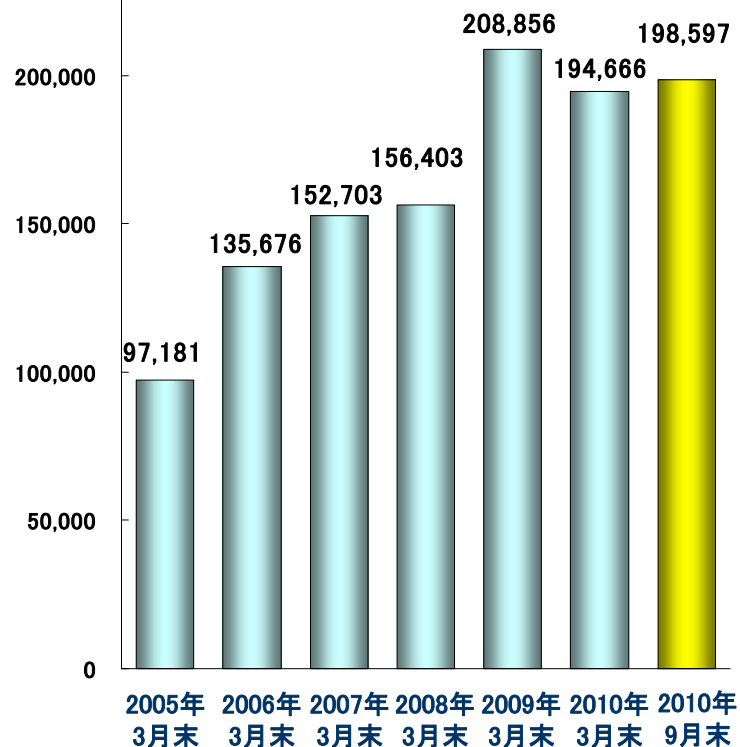
SBIホールディングス 株主構成の推移

2009年3月期から外国人投資家の保有比率が急上昇

2008年3月末 24.2% → 2009年3月末 44.2% → 2010年3月末 45.2% → **2010年9月末 45.5%**

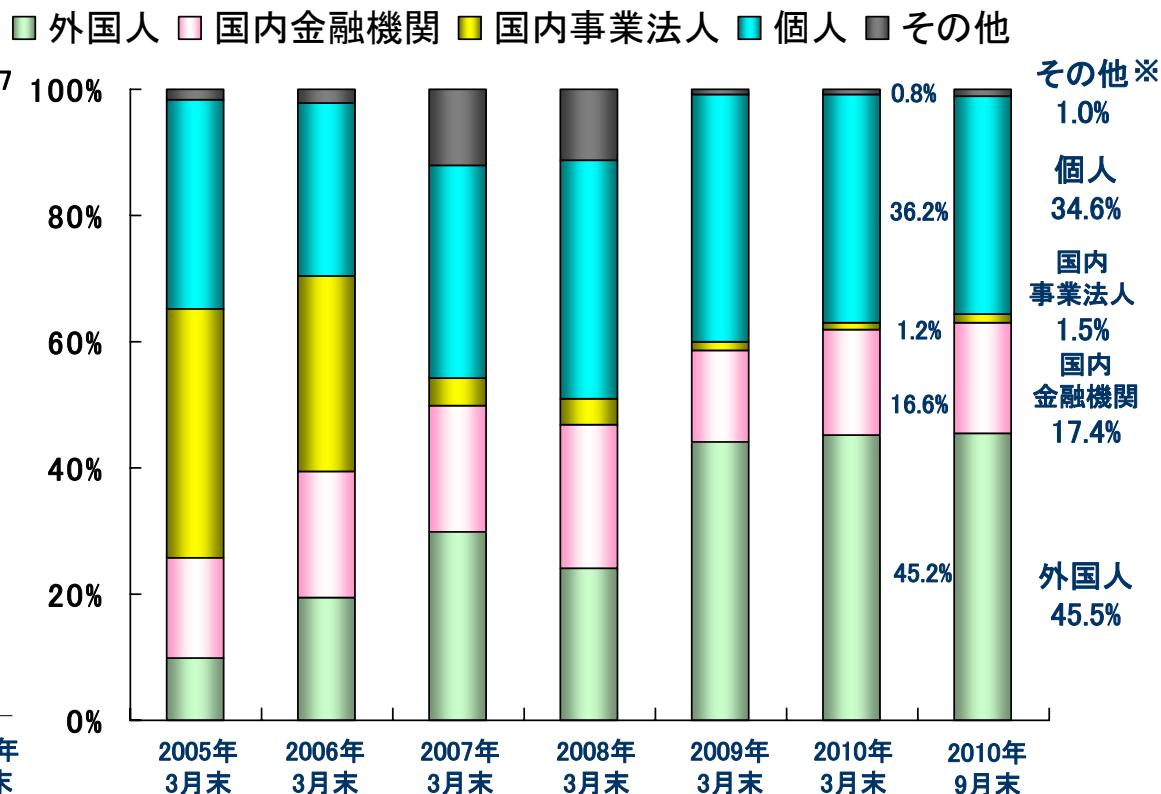
株主数の推移

(単位:名)



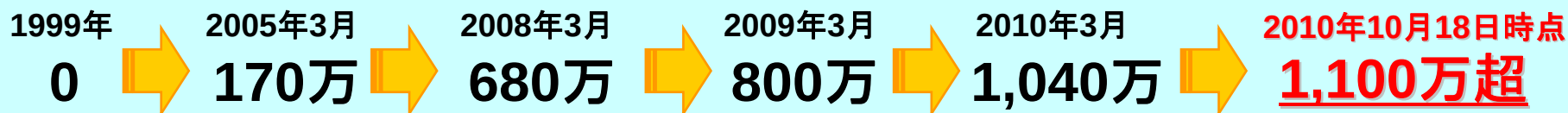
(端株主を含む)

株主構成比率の推移



※その他には「自己株式」0.07%を含む

急拡大するSBIグループの顧客基盤



主なグループ企業・事業部等		2010年9月末 (単位:万)
SBI証券	(口座数)	212.8
SBIH インズウェブ	(保有顧客数)	360.5
イー・ローン	(保有顧客数)	97.3
上記以外の金融系サイト	(保有顧客数)	12.7
MoneyLook(マネールック)	(登録者数)	58.9
モーニングスター	(新ポートフォリオ登録者数)	6.2
SBIカード	(カード発行枚数)	8.4
住信SBIネット銀行	(口座数)	89.2
SBI損保	(累計成約者数)	20.7
オートックワン	(09年度利用者数)	128.0
生活関連サイト(チケット流通、ムスビー)	(登録会員数)	61.6
SBIクレジット	(顧客数)	7.9
その他		33.1
合計		1,097.3

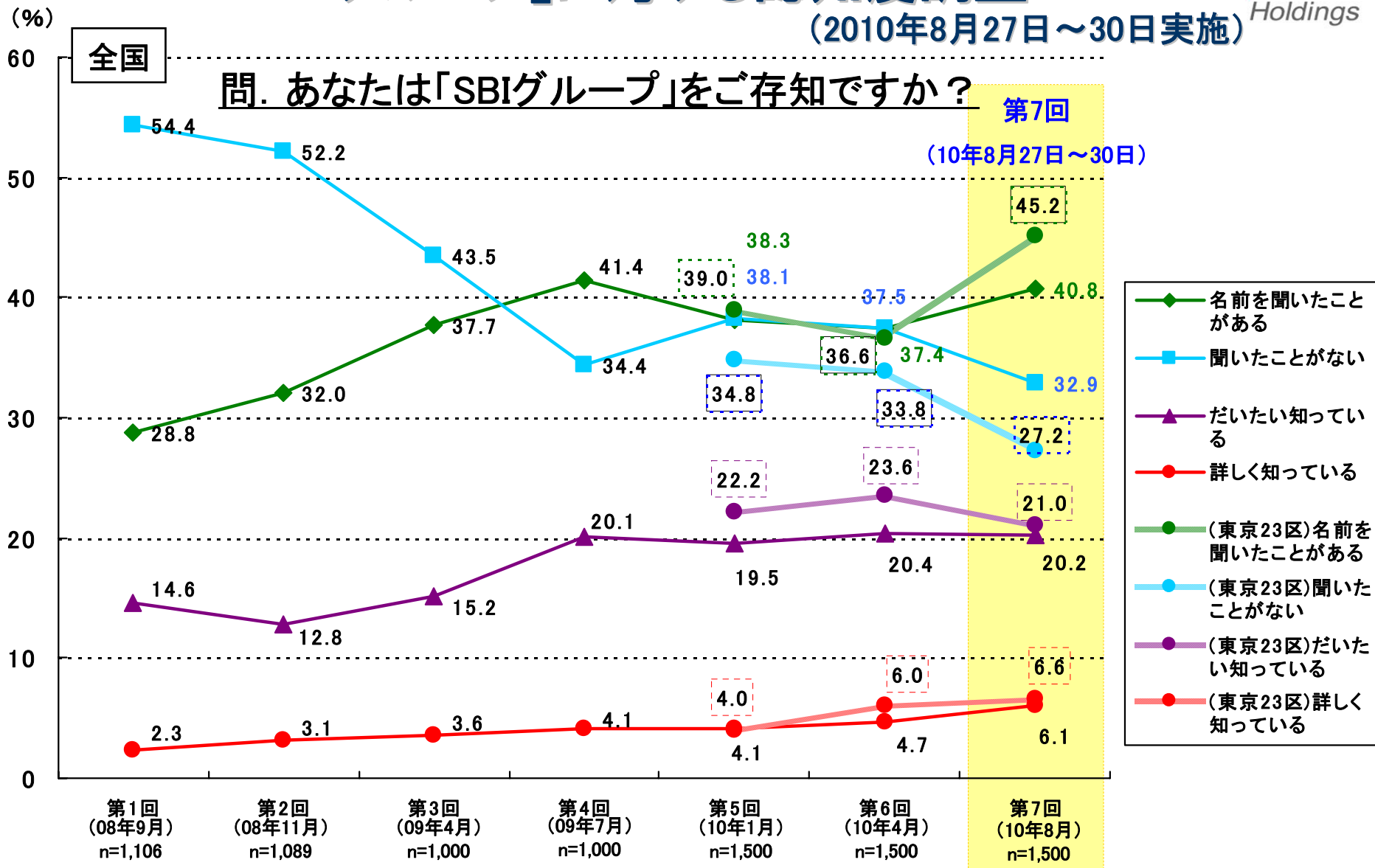
※ 2009年9月に定義の見直しを行ったため、2009年3月以前と2010年3月以降とでは集計方法が一部異なります。

※ 各サービスサイトの性質上、複数の取引を行ってもユーザーを認識しうる場合には重複を省く一方、グループ企業間における重複顧客はダブルカウントされています。

※ SBI損保の累計成約者数は、継続契約、継続期間満了、中途解約者数等の数字を除いた数字です。

「SBIグループ」に対する認知度調査

(2010年8月27日～30日実施)



グループ運用資産総額の状況

2010年9月末現在 5,652億円

プライベート・エクイティ等 3,117億円

〔IT・バイオ等〕 合計 1,235

ブロードバンド・メディア 524

モバイル 278

バイオ 152

その他※1、2 281

〔バイアウト・メザニン〕 合計 436

バリューアップ 209

メザニン 226

〔直接投資〕 334

〔環境・エネルギー ※2〕 80

〔海外〕 合計 1,032

中国 ※2 311

韓国 152

ベトナム 78

インド 89

ハンガリー 139

アメリカ ※2 126

その他 ※2 137

〔投資信託等〕 2,027億円

投資信託 402

投資顧問 1,610

投資法人 15

〔不動産等〕 508億円

開発物件 294

稼働物件 214

不動産は投資総額、投資信託・投資顧問等は2010年9月末の時価純資産、その他ファンドは2010年9月時点の各ファンドの直近決算に基づく時価純資産で記載。億円未満は四捨五入。

※1 SBI HIKARI P.E. 及びSBIトランスサイエンスが運用するファンドを含む。

※2 決算期を迎えていないものについては、出資約束金額ベースで算出。

<http://www.sbigroup.co.jp>